

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	専門職大学の設置									
フリガナ設置者	ヒョウゴケン 兵庫県									
フリガナ大学の名称	ゲイジュツブンカカンコウセンモンシヨクダイガク 芸術文化観光専門職大学(Professional College of Arts and Tourism)									
大学本部の位置	兵庫県豊岡市山王町7番52									
大学の目的	芸術文化及び観光の分野で活躍することによって、芸術文化と観光による価値連鎖を創出し、観光事業による交流の拡大、消費活動の喚起を通じて芸術文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環を促すことのできる専門職業人を育成する。 また、地域に根ざした教育研究活動を展開するとともに、産学官連携及び小中高大連携の強化、生涯教育の充実、地域との協働等を推進する拠点として地域社会に貢献する。あわせて芸術文化を生かした新たな観光ビジネス、芸術文化の創造活動や優れた文化政策の進展に寄与し、グローバルなネットワークの形成に貢献する。									
新設学部等の目的	地域活性化における芸術文化と観光の果たす役割を理解し、両分野の視点を生かし、芸術文化と観光に関する事業活動を推進することで地域の新たな活力を創出する専門職業人を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	芸術文化・観光学部 [Faculty of Arts and Tourism] 芸術文化・観光学科 [Department of Arts and Tourism]	年	人	年次人	人	芸術文化学士 (専門職) (Bachelor of Arts) 観光学士(専門職) (Bachelor of Tourism)	令和3年4月 第1年次	兵庫県豊岡市山王町7番52		
	計		80	—	320					
		4	80	—	320					
			80	—	320					
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	令和3年4月1日 公立大学法人兵庫県立大学に設置者変更予定									
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実習	計				
	芸術文化観光学部 芸術文化観光学科		98 科目	12 科目	36 科目	146 科目	134 単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科	13 (11)	9 (6)	10 (9)	8 (6)	40 (32)	1 (1)	38 (10)	
	分	計	13 (11)	9 (6)	10 (9)	8 (6)	40 (32)	1 (1)	— (—)	
	既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
分	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
要	合計			13 (11)	9 (6)	10 (9)	8 (6)	40 (32)	1 (1)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		21 (21)	15 (15)	36 (36)					
	技 術 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		23 (23)	16 (16)	39 (39)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校地等は豊岡市から無償借用 借用面積： 14,805.18㎡ 借用期間： 30年				
	校 舎 敷 地	7,370.69㎡	0㎡	0㎡	7,370.69㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	小 計	7,370.69㎡	0㎡	0㎡	7,370.69㎡					
	そ の 他	7,434.49㎡	0㎡	0㎡	7,434.49㎡					
	合 計	14,805.18㎡	0㎡	0㎡	14,805.18㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		11,932.90㎡ (11,932.90㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	11,932.90㎡ (11,932.90㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (情報処理学習施設と語学学習施設は共用)				
	15室	8室	8室	1室 (補助職員 一人)	1室 (補助職員 一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		芸術文化観光学部 芸術文化観光学科		41 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	芸術文化観光学部 芸術文化観光学科	30,000 [6,100] (21,000 [4,300])	80 [30] (56 [21])	7 [7] (7 [7])	100 (70)	— (—)	— (—)			
	計	30,000 [6,100] (21,000 [4,300])	80 [30] (56 [21])	7 [7] (7 [7])	100 (70)	— (—)	— (—)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数		大学全体				
		1,245.08㎡	134席	70,000冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
		0㎡ 〔豊岡市民体育館及び総合体育館を使用〕	トレーニング室 107.94㎡ 〔豊岡総合スポーツセンター(野球場・陸上競技場・テニスコート)を使用〕							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 学生1人当り納付金の第1年次欄、上段は入学の日の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者又はその配偶者若しくは1親等の親族である者 下段は、上記以外の者	
		教員1人当り研究費等	—	300千円	300千円	300千円	300千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等	—	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	— 千円		— 千円
		図書購入費	122,960千円	59,120千円	11,240千円	11,240千円	11,240千円	— 千円		— 千円
		設備購入費	124,326千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	— 千円		— 千円
	学生1人当り納付金	第1年次 千円 817.8 958.8	第2年次 千円 535.8	第3年次 千円 535.8	第4年次 千円 535.8	第5年次 千円 —	第6年次 千円 —			
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		—							
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	該当なし		— 年	— 人	— 年次人	— 人	—	— 倍	—	—

<p>附属施設の概要</p>	<p>該当なし</p>	
----------------	-------------	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
①基礎科目	コミュニケーション演習	1①、③	3				○		1	1	3	2		オムニバス方式 共同(一部)	
	知と表現のデザイン	1①、③	2				○		3		3	1		共同	
	情報処理演習	1①、③	2				○			1	1			共同	
	ICT演習	2①、③	2	2			○			1	1			共同	
	データサイエンス演習	3①	1				○			1					
	英語1A	1①	3				○			1				兼2	
	英語1B	1③	3				○			1				兼2	
	英語2A	2①	2				○							兼3	
	英語2B	2③	2				○							兼3	
	中国語	2①		2			○					1			
	韓国語	2③		2			○					1			
	日本語	1①		2			○					1			
	英語合宿	1②		1			○				1				
	海外語学研修A	1・2・3④		2			○		1	1				共同	
	海外語学研修B	1・2・3②		2			○		1	1				共同	
	海外語学研修C	1・2・3②		2			○		1	1				共同	
	統計学	1①		2			○							兼1	
	社会調査学	1①		2			○		1						
	知的創造性科目	社会学	1・2②④	1				○							兼1 集中・隔年
		言語表現論	1・2②	1				○							兼1 集中・隔年
地域とつながる歴史学		1・2②	1				○							兼1 集中・隔年	
政治学		1・2②	1				○							兼1 集中・隔年	
文学		1・2②	1				○							兼1 集中・隔年	
経済学		1・2②④	1				○							兼1 集中・隔年	
美学		1③		2			○		1						
芸術学	1③		2			○		2					オムニバス		
小計(26科目)		—	19	28	0	—			6	3	7	3	0	兼11	
②職業専門科目	マネジメント入門	1①	2				○		2						
	アカウンティング入門	1③	2				○		1						
	事業創造入門	2①	2				○			1	1			兼1 オムニバス	
	観光事業概論	1①	2				○		2	1				オムニバス	
	観光産業マーケティング論	2①	2				○		1						
	観光サービスマネジメント論	2①		2			○		1						
	アートマネジメント概論	1①	2				○		2			1		オムニバス	
	パフォーミングアーツ概論	1①		2			○		1	1	2			オムニバス	
	文化施設運営論	2①	2				○			1	1			オムニバス	
	芸術文化と観光	1①	1				○		2					兼1 オムニバス	
	建築関連法令と著作権	2②		1			○							兼2 オムニバス、集中	
	地域創生論	2③	2				○		1					兼1 オムニバス	
	芸術文化・観光プロジェクト実習1	1②	2						1	1	4	4		共同	
	芸術文化・観光プロジェクト実習2	2②		2					1	1	4	4		共同	
	芸術文化・観光プロジェクト実習3	3②		2					2		3	1		共同	
	芸術文化・観光プロジェクト実習4	4②		2					2		3	1		共同	
	専門演習	3①、③	4					○	12	9					共同
小計(17科目)		—	23	11	0	—			13	9	7	5	0	兼4	
共通	リーダーシップ論	2①		2			○		1						
	グローバルリーダー入門	2①		2			○			1					
	アントレプレナーシップ論	2③		2			○		1						
	ビジネスアカウンティング論	2③		2			○		1						
	組織マネジメント論	3①		2			○			1				兼1	
	コーチング論	3①		2			○								
	地域イノベーション論	3①		2			○		1						
	リスクマネジメント論	3③		2			○			1					
	人的資源管理論	3④		1			○							兼1 集中	
	地域創生実習	2④		2					1		1	1	1	共同	
創造性開発演習	3①		2				○	1			1		共同		
地域イノベーション実習	3②		2					1	1	1	2	1	共同		
地域連携実習	4②		2					1		1	2	1	共同		
小計(13科目)		—	0	25	0	—			4	1	1	2	1	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
②職業専門科目	職業理論科目 観光系科目群	観光政策論	1③		2		○			1								
		観光交通論	1③		2		○					1						
		ニューツーリズム論	1③		2		○			1	1						オムニバス	
		観光経営学	1③		1		○										兼1	
		観光産業分析	1③		1		○										兼1	
		旅行産業論	2①		2		○			1								
		宿泊産業論	2①		2		○				1			1			共同	
		エリアマネジメント論	2①		2		○			1	1						オムニバス	
		観光社会学	2①		2		○										兼1	
		デスティネーションマネジメント論	2③		2		○			1								
		観光地理学	2③		2		○			1	1						オムニバス	
		観光マーケティング分析論	2③		2		○			1								
		観光メディア論	3①		2		○										兼1	
		観光キャリア英語	3①		2		○			1								
		マネジメントキャリア英語	3①		2		○			1								
		観光デジタルマーケティング論	3②		2		○										兼1	
		デスティネーションマーケティング論	3③		2		○			1								
	旅行者心理学	3③		2		○			1									
	ブランド論	3③		2		○			1									
	インバウンドマーケティング論	3③		2		○			1									
小計(20科目)	—	0	38	0	—	—	—	8	2	1	1	0	兼3					
職業実践科目	社会調査演習	1①③		2		○			1							共同		
	観光資源実習	1②		1					1			1				共同		
	観光交通業実習1	1④		2					1			2				共同		
	観光交通業実習2	2④		2					1			2				共同		
	旅行事業実習1	2②		2					1			2				共同		
	旅行事業実習2	3②		2					1			2				共同		
	宿泊業実習1	2②		4					1	1		1	1			共同		
	宿泊業実習2	2④		4					1	1		1	1			共同		
	海外実習A	2②		2					1	1	1	1				共同		
	ホスピタリティ実習	2④		8					1	1		1				共同		
	観光プロモーション演習	3①		2			連			1						実習等代替		
	デスティネーション実習	3②		2					2	1		1				共同		
	観光情報演習	3③		2			○					1						
	観光プロジェクト立案演習	3③		2			連									実習等代替		
小計(14科目)	—	0	37	0	—	—	—	5	2	2	3	1						
芸術文化系科目群	職業理論科目	演劇史	1②		1		○									兼1	集中	
		文化政策概論	1③		2		○			2			1				オムニバス	
		批評論	2①		2		○			1								
		芸術文化と著作権、法、契約	2②		1		○										兼1	集中
		美学美術史	2③		2		○			1								
		世界の文化政策	2③		2		○						3				オムニバス	
		映像メディア論	2④		1		○										兼1	集中
		企業メセナ論	3①		2		○						1					
		アートキャリア英語	3①		2		○						1					
		民俗芸能論	3②		1		○										兼1	集中
		音楽文化論	3③		2		○			1								
		現代アート論	3③		2		○			1			1				共同	
		文化産業論	3③		2		○						1					
		舞台芸術入門	2①		2		○					2	1	1			オムニバス	
		演劇入門	2①		2		○			1								
		空間デザイン入門	2①		2		○					1						
		演劇教育入門	2③		2		○						2	1			オムニバス	
		演技論	2③		2		○					1	1				オムニバス	
		身体表現論	2③		2		○					1	1				オムニバス	
		舞台芸術論	3①		2		○			1			2				オムニバス	
		舞台美術論	3①		2		○					1						
		パフォーミングキャリア英語	3①		2		○							1				
		演劇教育論	3③		2		○						2	1			オムニバス	
小計(23科目)	—	0	42	0	—	—	—	4	3	7	3	0	兼4					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
② 職業専門科目 芸術文化系科目群 職業実践科目	舞台芸術基礎実習	1③		2				連		3	4	3		共同	
	舞台芸術実習A	2①		2				連		3	4	3		共同	
	舞台芸術実習B	2③		2				臨		3	4	3		共同	
	舞台芸術実習C	3①		2				連		3	4	3		共同	
	舞台芸術実習D	3③		2				臨		3	4	3		共同	
	劇場プロデュース実習1	2④		2				臨	1	1	1	1		共同	
	劇場プロデュース実習2	3②		2				臨	1	1	1	1		共同	
	文化政策実習	3②		2				臨	1		3	1		共同	
	総合芸術文化実習	4②		4				臨		1	1			共同	
	身体コミュニケーション実習	1①		2				○		2	1			オムニバス	
	演劇ワークショップ実習A	1②		2				○			1	1		共同	
	演劇ワークショップ実習B	1④		2				○			1	1		共同	
	演劇ワークショップ実習C	2②		2				○			1	1		共同	
	演劇ワークショップ実習D	2④		2				○			1	1		共同	
	ダンスワークショップ実習A	1②		2				○		1					
	ダンスワークショップ実習B	1④		2				○			1				
	ダンスワークショップ実習C	2②		2				○		1					
	ダンスワークショップ実習D	2④		2				○		1					
	海外実習B	2②		2				○	1			1		共同	
小計(19科目)		—	0	40	0		—		2	4	7	4	0		
小計(106科目)		—	23	193	0		—		13	9	10	8	1	兼12	
③ 展開科目	世界を知る	1③		2			○		1					兼1	
	地域の医療と福祉	1③		2			○							兼1	
	持続可能な社会	1③		2			○								
	地域コミュニティー論	2①		2			○		1						
	国際防災論	2①		2			○			1					
	NPO・NGOと国際社会	2②		2			○							兼1 集中	
	多文化社会の社会教育	2③		2			○							兼1	
	兵庫の教訓を踏まえた防災	3②		2			○							兼1	
	ジオパークと地域	3②		2			○							兼3 集中	
	コウホリの野生復帰と地域	3③		2			○							兼7 オムニバス	
	地域資源の保全と活用	3③		2			○				1			兼3 オムニバス	
	地域情報論	3③		2			○								
国際環境論	3③		2			○		1							
小計(13科目)		—	0	26	0		—		3	2	0	0	0	兼15	
④ 科総目合	総合演習	4①③		4				○		12	9			共同	
	小計(1科目)		—	4	0	0		—		12	9				
合計(146科目)			—	46	247	0		—		13	9	10	8	1	兼38
学位又は称号		芸術文化学士(専門職) 観光学士(専門職)			学位又は学科の分野			美術関係 社会学・社会福祉学関係							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>＜主たる専攻・芸術文化分野＞</p> <p>・卒業要件 卒業要件単位数は、合計134単位以上を修得する。 次により、必修科目46単位、選択科目88単位以上を修得すること。</p> <p>【基礎科目】基礎科目では、必修科目及び選択科目について合計20単位以上を修得する。</p> <p>【職業専門科目】 職業専門科目では、必修科目のほか選択科目について次の要件を満たした上で、90単位以上を修得する。必修科目、選択必修科目の必修単位数を除く39単位のうち、30単位以上は「コア科目群」「共通」「芸術文化系科目群」の科目から履修すること。</p> <p>コア科目群の「パフォーマンスアート概論」を必ず履修すること。</p> <p>(1) [共通]のうち「リーダーシップ論」「グローバルリーダー入門」「アントレプレナーシップ論」「組織マネジメント論」から2単位、「地域創生実習」「地域イノベーション実習」から2単位。</p> <p>(2) [観光系科目群]のうち「観光交通論」「観光経営学」「観光産業分析」「旅行産業論」「宿泊産業論」から4単位、「観光政策論」「ニューツーリズム論」「観光社会学」から2単位、「観光交通実習1」「旅行事業実習1」「宿泊実習1」「ホスピタリティ実習」から2単位、「社会調査演習」「海外実習A」「観光プロモーション演習」「デスティネーション実習」「観光プロジェクト立案演習」から2単位。</p> <p>(3) [コア科目群]のうち「観光サービスマネジメント論」、[観光系科目群]から「デスティネーションマネジメント論」「観光マーケティング分析論」「観光デジタルマーケティング論」「デスティネーションマーケティング論」から2単位</p> <p>(4) [芸術文化系科目群]のうち「文化政策概論」「批評論」「美学美術史」「映像メディア論」「民俗芸能論」「現代アート論」「文化産業論」から4単位、「舞台芸術入門」「演劇入門」「空間デザイン入門」「演技論」「身体表現論」「舞台芸術論」から2単位、「舞台芸術基礎実習」「舞台芸術実習B」「舞台芸術実習D」「劇場プロデュース実習1」「劇場プロデュース実習2」「文化政策実習」から4単位。</p> <p>【展開科目】展開科目では、次の要件を満たした上で20単位以上を修得する。 「世界を知る」「地域の医療と福祉」「地域コミュニティ論」「NPO・NGOと国際社会」「多文化社会の社会教育」「地域情報論」から8単位、「持続可能な社会」「国際防災論」「兵庫の教訓を踏まえた防災」「ジオパークと地域」「コウノトリの野生復帰と地域」「地域資源の保全と活用」「国際環境論」から4単位。</p> <p>【総合科目】総合科目では4単位を修得する。</p> <p>・実習による授業科目に係る40単位以上を修得すること。この授業科目に係る単位数に臨地実務実習に係る20単位(5単位を超えない範囲で、連携実務演習等をもって代えることができる。)が含まれること。 ・履修制限: 1学年ごとの履修単位数の上限は48単位とする。</p>	<p>1学年の学期区分</p> <p>1学期の授業期間</p>	<p>4学期</p> <p>第1クォーター 13週 第2クォーター 5週 第3クォーター 13週 第4クォーター 4週</p>
<p>＜主たる専攻・観光分野＞</p> <p>・卒業要件 卒業要件単位数は、合計134単位以上を修得する。 次により、必修科目46単位、選択科目88単位以上を修得すること。</p> <p>【基礎科目】基礎科目では、必修科目及び選択科目について合計20単位以上を修得する。</p> <p>【職業専門科目】職業専門科目では、必修科目のほか選択科目について次の要件を満たした上で、90単位以上を修得する。必修科目、選択必修科目の必修単位数を除く39単位のうち、30単位以上は「コア科目群」「共通」「観光系科目群」の科目から履修すること。</p> <p>コア科目群の「観光サービスマネジメント論」を必ず履修すること。</p> <p>(1) [共通]のうち「リーダーシップ論」「グローバルリーダー入門」「アントレプレナーシップ論」「組織マネジメント論」から2単位、「地域創生実習」「地域イノベーション実習」から2単位。</p> <p>(2) [観光系科目群]のうち「観光政策論」「観光交通論」「観光経営学」「観光産業分析」「旅行産業論」「宿泊産業論」から4単位、「デスティネーションマネジメント論」「観光マーケティング分析論」「観光デジタルマーケティング論」「デスティネーションマーケティング論」「ブランド論」「インバウンドマーケティング論」から2単位、「観光交通実習1」「旅行事業実習1」「宿泊実習1」から2単位、「観光プロモーション演習」「デスティネーション実習」「観光プロジェクト立案演習」から2単位。</p> <p>(3) [芸術文化系科目群]のうち「文化政策概論」「批評論」「美学美術史」「映像メディア論」「民俗芸能論」「現代アート論」「文化産業論」から4単位、「舞台芸術基礎実習」「舞台芸術実習A」「舞台芸術実習B」「劇場プロデュース実習1」「劇場プロデュース実習2」「文化政策実習」「身体コミュニケーション実習」「海外実習B」から4単位。</p> <p>(4) [コア科目群]のうち「パフォーマンスアート概論」、[芸術文化系科目群]のうち「舞台芸術入門」「演劇入門」「空間デザイン入門」「演技論」「身体表現論」「舞台芸術論」から4単位。</p> <p>【展開科目】展開科目では、次の要件を満たした上で20単位以上を修得する。 「世界を知る」「地域の医療と福祉」「地域コミュニティ論」「NPO・NGOと国際社会」「多文化社会の社会教育」「地域情報論」から4単位、「持続可能な社会」「国際防災論」「兵庫の教訓を踏まえた防災」「ジオパークと地域」「コウノトリの野生復帰と地域」「地域資源の保全と活用」「国際環境論」から8単位。</p> <p>【総合科目】総合科目では4単位を修得する。</p> <p>・実習による授業科目に係る40単位以上を修得すること。この授業科目に係る単位数に臨地実務実習に係る20単位(5単位を超えない範囲で、連携実務演習等をもって代えることができる。)が含まれること。 ・履修制限: 1学年ごとの履修単位数の上限は48単位とする。</p>	<p>1時限の授業時間</p>	<p>60分</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
① 基礎科目	リテラシー科目	コミュニケーション演習	<p>本講座は、メタワークショップと呼ばれる手法を用いて、実際に身体を動かす演劇やダンスのワークショップと、パフォーマンスアーツの基礎的な理論に関する講義を交互に行い、大学での学び、特に本学での学びに必要とされるコミュニケーション能力を、実践を通じて身につけてもらうことを主眼としている。</p> <p>また、この講座は、本学の学びの根幹をなすことから、受講した全学生が、観光、マネジメント、アートマネジメント、演劇・ダンスの全方向に広い関心と好奇心を持つことを目標とし、各分野が横断的に関連していることを体得させることを目的としている。</p> <p>講義は、複数教員のオムニバスとし、授業によっては複数の教員で運営される。</p> <p>(オムニバス方式/全36回) (21 平田オリザ/21回) グループ創作、演劇マネジメントの基礎等 (12 平田知之/2回) 演劇教育 (24 石井路子/6回) 身体ワークショップ (25 山内健司/4回) 俳優の仕事 (20 杉山 至/1回) 舞台スタッフの仕事 (全員/2回) 合同発表会</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
		知と表現のデザイン	<p>高校までの学習と大学での研究の違いを意識して、主体的に協働して学ぶ技術と態度を育てる。情報収集、発信、リスクマネジメントの一般的な知識と技術を習得するとともに、チームで協働して、地域の課題を発見し、実際に足を運んで情報を収集し、考察を加え、報告書や発表会などで発信するプロジェクト型の学習を通して、学んだ知識や技術を、将来のキャリアに活かすための実践的な体験をする。</p>	
		情報処理演習	<p>本授業は情報処理を行う上での基礎的な知識と技能を習得することを目的とする授業であり、情報社会に生きるために不可欠となる倫理観と情報処理技術の基礎となる論理的思考の醸成をはかる。第1クォーター(1~12回)では「情報倫理」に焦点を当て、特に1~5回には、現代社会における「情報」の持つ意味に加えて、著作権や個人情報の取り扱いなどの法令に関わる知識、「炎上」問題に関する知識、オープンソース・ライセンスの知識などを実践を通して学ぶ。また情報倫理に関連して、6~12回には適切な情報発信のための基礎的な表現技法に加えて、バージョン管理といった情報通信技術の基礎についても学ぶ。</p> <p>一方、第3クォーター(13~24回)では「情報論理」に焦点を当て、13~14回にはマインドマップやUMLによるシステム的设计、15~18回にはRDBMSを通してデータ型やSQLの基礎を学ぶ。さらに、19~24回にはPythonによるプログラミングを通して、システム設計の基礎を学ぶとともに、プログラミング技術についても実践する。</p> <p>本授業では授業の前半に情報処理に関する基礎知識を座学形式で学び、授業の後半には座学で学んだ内容に対応した実技を通して知識を深めるとともに、技能スキルの獲得と向上を目指す。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
① 基礎科目	リテラシー科目	ICT演習	<p>本授業は情報通信技術（ICT）を駆使し、情報を発信するための技能を習得することを目的とする授業であり、主としてマルチメディア情報を活用した情報発信技術の方法を学ぶ。第1クォーター（1～12回）ではハードウェアの仕組みに加えて（1～5回）、画像と音声に関する情報の取得と加工の基礎を学ぶ（6～12回）。一方、第3クォーターでは動画や地理情報といったより複雑な情報の取得と加工の基礎について学ぶとともに（13～20回）、得られた情報を総合し、インターネットや紙媒体によって公開する方法について学ぶ（21～24回）。</p> <p>一連の講義と演習を通して、デジタルカメラやマイク、GPS、スマートデバイスなどの使い方や、使う上での技術的な視点による注意事項を知ると同時に、原理や理論に裏付けられた機器の設定や設置方法を修得する。また、実際の技術スキルとして、画像処理ソフト（GIMP / RawTherapee）や音声編集ソフト（Audacity）、動画編集ソフト（Kdenlive）、地理情報システム（QGIS）、プレゼンテーションソフト（LibreOffice Impress / Prezi）の使い方とも習得するほか、「情報処理演習」で学んだ基礎をベースに、より高度な情報表現の手法を学ぶ。</p>	共同
		データサイエンス演習	<p>本授業は高度な情報技術を用いて情報を分析し、意思決定支援を行うための技能を習得することを目的とする授業であり、データを通して実世界における様々な課題を解決する方法について学ぶ。具体的には、データベースの設計と実装、SQLによるデータベースへの問合せ、多次元データ解析、ネットワーク分析、自然言語処理、地理空間データ解析の方法の基礎について学ぶ。また、一連の技能習得に加えて、プログラミングに関する基礎的技能やデータの可視化手法の習得も目指す。</p>	
		英語 1A	<p>英語の4技能をバランスよく習得することを目的とする。英語が苦手な学習者も興味を持って取り組めるように授業を進める。具体的には、文法の練習問題だけでなく、歌やチャンツによる英語のリズム練習、ビデオ視聴によるリスニングの練習、英語ニュースの読解、日常場面のスキット練習など様々な活動を組み合わせて行う。また、映画の視聴、シナリオやエッセイの読解を通して、自分の考えをまとめたり発表する活動を行う。社会問題に関心を持ち、異文化に対する理解を深める機会をもつ。</p>	
		英語 1B	<p>英語 1Aの学習をさらに進め、英語の四技能をバランスよく習得し、積極的にコミュニケーションに向かう態度を涵養する。英語が苦手な学習者にとっても興味を持って取り組めるように授業を進める。具体的には、文法の練習問題だけでなく、歌やチャンツによる英語のリズム練習、映像を用いたリスニングの練習、ニュース記事や映画シナリオの読解、日常場面のスキット練習など様々な活動を組み合わせて行う。また、映画の視聴、シナリオやエッセイの読解を通して、自分の考えをまとめたり発表する活動を行う。社会問題に関心を持ち、異文化に対する理解を深める機会をもつ。</p>	
		英語 2A	<p>英語1A、1Bの内容を発展させた必修科目である。アートマネジメントや観光・経営分野におけるコミュニケーションにも繋がる様々な場面で求められる英語リテラシーの涵養をめざす。具体的には、生活場面を想定した会話練習のほか、会話の聞き取りとノートテイキングの方法、メール文の読解やネット上で情報を検索する際に必要となる英語語彙表現、芸術・観光・経営の分野ビジネス用語も合わせて習得する。</p>	
		英語 2B	<p>英語2Aをもとに、その内容を発展させた授業である。アートマネジメントや観光・経営分野におけるコミュニケーションにも繋がる様々な場面で求められる英語リテラシーの涵養をめざす。具体的には、生活場面を想定した会話練習のほか、インターネットや文献から必要な情報を得てそれをまとめる力や、そのときに必要となる語彙表現の習得もすすめる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
① 基礎科目	リテラシー科目	中国語	この講義は、中国語を初めて学ぶ人のための基礎的クラスであり、「聞く力」と「話す力」の向上をさせるためのものである。 ①日常生活でよく出会う場面を取り上げて、適切な言い方ができるように、更に初心者でも中国人とコミュニケーションが取れるように演劇的手法を取り入れた会話練習を行う。②会話文例で学んだ表現を使い、多くの練習問題を通して、口慣らしをし、会話の基礎を固める。③耳の練習を重ね、耳から覚えることによって、コミュニケーション能力を高める。④普段のスピードで話す中国人の会話を取り入れることによって、入門段階から自然な中国語に対応できるようになる。	
		韓国語	この授業は、韓国語を初めて学ぶ人のための基礎クラスである。初めて学習する言語なので、ハングルの文字と発音をして単語と基本文法を学び、「書く・読む」に重点をおいて進める。文法事項に関してはテキストに沿ってバランスよく学習する。韓国語の発音に慣れるため、読む練習を繰り返し行う。新しく習った単語を用いて日常的で頻繁に使う表現を作文しながら学習する。授業中に作文したものについては、ペアで練習する。また、多様な文章を読み、韓国語に特有の表現を使えるようにする。副教材として映像や音楽を積極的に用いる。	
		日本語	この講義は「聞く力」と「話す力」を伸ばすための授業である。 ①留学生が苦手な発音を音読練習で矯正し、母語の影響を受けた発音のために日本語が不自然に聞こえるという問題を克服する。②留学生が学校や日常生活でよく出会う場面やトラブルを取り上げて、適切な言い方ができるように、更に日本語で円滑なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。留学生が生活の中でよりよい人間関係を築くために演劇的手法を取り入れた会話練習を行う。	
		英語合宿	学外施設において受講者が寝食を共にしながら、集中的にタスク活動を英語で行うことによって、総合的な英語力とコミュニケーション力を涵養することを目的とする。特に他者と協働し、対話や交渉を繰り返す機会を多く体験することによって、外国語である英語を自分(たち)らしいことばとして共有し、創造的に使用できる人になることをめざす。	
		海外語学研修A	受講者は、海外提携校による英語学習コースの中で、実践的に英語を使う機会を得てコミュニケーション力の涵養をめざす。と同時に、現地での生活体験を通して、英語圏の文化や社会のしぐみに興味を持ち、深く理解することを目的とする。 University of Hawaii at Manoa (ホノルル, ハワイ, アメリカ)	共同
		海外語学研修B	受講者は、海外提携校による英語学習コースの中で、実践的に英語を使う機会を得てコミュニケーション力の涵養をめざす。と同時に、現地での生活体験を通して、英語圏の文化や社会のしぐみに興味を持ち、深く理解することを目的とする。 University of Washington (シアトル, ワシントン州, アメリカ)	共同
		海外語学研修C	受講者は、海外提携校による英語学習コースの中で、実践的に英語を使う機会を得てコミュニケーション力の涵養をめざす。と同時に、現地での生活体験を通して、英語圏の文化や社会のしぐみに興味を持ち、深く理解することを目的とする。 University of Sussex (ブライトン, サセックス, 英国)	共同
		統計学	現代社会において、人は数字に取り巻かれて生活している。数量をより分かり易く理解し、説得力のある説明をするための手段の一つが統計学である。本講義では、統計の考え方に基づいて、身の回りの値を読み取り、意思決定に結びつける基礎的方法を学ぶ。データのまとめ方や客観的な活用技術は、これから学ぶ専門科目の理解、さらに社会に出てから必要なものとなる。	
		社会調査学	この授業では、人類学的な調査(フィールドワーク)の基本的な理論と方法を習得することを目的とする。問題設定、調査の計画と準備、実施(資料・データ収集)、分析、調査倫理などの調査の一連の流れを説明し、おもに質的調査(参与観察, インタビュー)と文献調査の基本的技法の習得を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
① 基礎科目	知的創造性科目	社会学	本講座では、社会学とは何かについて多面的な考察を行う。社会は、われわれが日常接する集団や組織、あるいはもっと小さな人間関係などからも形成されている。社会学とは、こういった組織や集団を研究対象とし、その仕組みやはたらき（システム）を理解する学問である。本講座では前半でシステム理論の基礎概念を学ぶ。後半では、それらを踏まえて、「近代社会の全体性の把握」をテーマに、より広範な社会学的なものの見方を学ぶ。	
		言語表現論	記号としての言語とは何か、表現とは何かについて、記号論や言語学的な考察も交えながら、実践的に考察する。しかし、授業では、専門の学者に限らず、文学者、哲学者、言語表現の本質を洞察した賢者たちの知見や文章をできるだけ多く取り上げ、学生が関心をもって取り組める内容とする。また、学生にも適時に課題を出して、短い文章を書いてもらう。	
		地域とつながる歴史学	①歴史とは何でそれを知ったり考えることは現代人にとってどんな意味があるのか、歴史学とは何をどうする学問か、それは歴史小説などの創作や「トンデモ史学」とどこで区別されるかなどの基礎について講義する。②文化や芸術・芸能を主な例として、地域の歴史、日本の歴史、世界の歴史などを別物として切り離さず一体のものとして、しかも地域の未来など現代社会のいろいろな課題につながったものとして講義する。③それらについて課題を提示し、受講生のグループワーク・発表や討論をおこなう。	
		政治学	授業の目標は法令などの諸規則、予算、税制などの概要の調べた方を理解するとともに、それらの制定や改正のプロセスとダイナミズムを理解する。 授業形態は①政策形成のプロセスとダイナミズムを、国政・県政・市政のレベルを認識しながら概説する講義 ②政策提案力と政策実現力を獲得するためのグループワークと発表による。	
		文学	「文学」とは何か、それがなぜ人間にとって、社会にとって必要なものなのかを根源的に考察する。本講座では、日本文学、海外文学といった区分をすることなく、ダイレクトに文学とは何かについて考えていく。そのため、講義は、様々な文学に触れることと、実際にそれを書いてみることの両面で構成され、相互補完的に、文学とは何かについての探求を行う。	
		経済学	授業は講義形式を中心に行う。世界と日本が抱える課題を経済の観点から解明していくことを授業の目標とする。従来「例外」だと考えていたことが、21世紀になって「常態」化しつつある。その代表例が日本やドイツのマイナス金利が長期化したり、米国のトランプ大統領が国際機関を通ずることなく、二国間協議を重視し各国と対立が深まったりしている。こうした事態の水面下で何が起きているのかを学生と一緒に考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
① 基礎科目	知的創造性科目	美学	「美学＝感性学(エステティック)」を単なる知識の学習のみならず、五感を用いる「美」の経験とその知的理解として会得できるようになることを目的とする。芸術のジャンルのにも、絵画、音楽から、映像、舞台芸術に至るまで、それぞれのジャンルにおける美的経験の共通点と相違点を探っていく。さらに、文化圏（特に西洋と東洋）によって美の感じ方・作り方が異なることを理解していく。最終的には、人間にとって美の経験と理解には普遍性があるか否かを問うていく。	
		芸術学	<p>芸術学とは「芸術とは何か」を考える学問であると同時に、美術・音楽・演劇・舞踊・写真・映画・文学など、さまざまな芸術ジャンルの特性を理解する学問でもある。この講義では「芸術が生まれる場」という観点から、さまざまな芸術を捉えてみたいと思う。「芸術が生まれる場」には、それに立ち会う人が必要だからである。人と人との関係の中に成立する芸術は、人と人をつなげるコミュニケーションの媒体ともなる。つまりモノとしての芸術作品だけでなく、社会的な形成力、あるいは文芸的な公共性が立ち現れる場として「芸術」を考えてみたい。ミュージアム、文化ホール、劇場、コミュニティ・カフェなどを例に、芸術の社会的機能（役割）を探り、アートマネジメントや舞台芸術への理解を深めたいと思う。</p> <p>(オムニバス方式／全12回) (3 藤野一夫／6回) コンサートホールから生まれる芸術、劇場から生まれる芸術、オペラ・ハウスから生まれる芸術、社会文化センターとアートセンターから生まれる芸術、シラーの美的教育論と美的共同体、フェスティバルから生まれる芸術～ワグナーの総合芸術論 (5 熊倉敬聡／6回) 芸術が生まれる場、都市から生まれる芸術、カフェから生まれる芸術、密室から生まれる芸術、地方から生まれる芸術、アートプロジェクトと都市／地方</p>	オムニバス方式
② 職業専門科目	コア科目群	マネジメント入門	<p>マネジメント入門は、組織がどのような目的で形成され、どのようにして存続してゆくのかを理解することを授業の目的としている。従来の位置づけでは「経営学」に相当するが、科目体系としてのマネジメントと経営学とはかなりアプローチ方法が異なる。ドラッカーによると、マネジメントの仕事には3つの機能がある。「事業をマネジメントすること」、「経営管理者をマネジメントすること」、そして「人と仕事をマネジメントすること」である。この授業では、ドラッカーの体系に従って授業内容を構成してゆく。(令和3年度は小熊英国、令和4年度以降は佐藤善信が担当)</p>	
		アカウンティング入門	<p>経理や会計関連の職に就くか否かに係わらず、会社の利益やコスト意識に対する理解は、ビジネスマンに必要なリテラシーのひとつである。営業部門なら、売上に加えて原価や粗利についての理解が必要である。製造部門なら、減価償却費や原価計算は当然理解していなければならない。また、ビジネスマンとして、出張旅費や立替交際費の精算などは避けて通ることはできない。したがって、決算書が読めるだけでなく、基礎からしっかりとした会計の知識を身につけておくことが重要となる。本講義は会計の初学者を対象とし、網羅的に基礎から会計の知識を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目	コア科目群	<p>事業創造入門</p> <p>新規事業の創造に関する基本的な理論を、大企業の新規事業開発、中小企業、ファミリービジネス、ベンチャービジネスにおける、どのような視点で事業創造がされてきたか、アイデアの着眼点や起業のプロセス、経営戦略に関する理解を深めることを目的とする。日本国内だけではなく、米国や中国の起業スタイルに関しても理解し、多様化する価値観や社会の急速な変化に対応できる俊敏性と持続性を有する起業とはどのようなものか理解を図る。さらに、地域金融機関による財務支援や自治体の産業クラスター形成による地域活性化の取組みなど、事業創造に関する総括的な知識の習得を目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／12回) (32) 細海真二／6回)</p> <p>事業創造に関する基本的理論と具体事例について講義する。大企業における組織内新規事業のケースと、中小、ファミリービジネスの場合の相違点について重点的に講義をし、様々なケースに対応するための基礎理論と実践を講義する。</p> <p>(34) 瓶内栄作／1回)</p> <p>事業承継や第二創業など地域密着型組織体における課題を整理し、実務的視点でビジネスプラン作成などを担当する。</p> <p>(52 佐竹隆幸／2回)</p> <p>地域において、住民、自治体、企業間の人的関係の基盤となる信頼資本をより強固なものにすることが事業創造の核になることを講義する。また地域企業の経営体験のベストプラクティスの情報提供や経営資源の共有など新たな事業創造におけるさまざまな課題を俯瞰的に講義する。</p> <p>(32) 細海真二・(34) 瓶内栄作／3回) グループ討議、グループ発表</p>	オムニバス方式
		<p>観光事業概論</p> <p>インバウンドツーリズムによる消費額が4兆5189億円(2018年)となり、インバウンド消費額を輸出とみた場合、既に自動車、化学製品に次ぐ第3位の輸出額となっている。観光事業は国を支える産業の柱に成長したといえる。</p> <p>この講義では、「グローバル」「イノベーション」「マーケティング」をキーワードに事例を紹介し、その事例がなぜうまくいっているのかを経営やマーケティングの理論を中心に紹介する。そして、興味が高まり関心が深まるようであれば、それを支える理論や学問についてより専門的に学びかけとして欲しい。低学年時に学ぶべき学問の気づきを示し本学における有意義な学生生活の道筋を示していくことをすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全12回) (30) 小熊英国／4回)</p> <p>観光のマネジメント特性、H. I. S. の海外進出における国際経営行動</p> <p>(19) 大社充／4回)</p> <p>観光のマーケティング・マネジメント、観光とまちづくりの近接</p> <p>(33) 高橋伸佳／4回)</p> <p>観光事業のイノベーション、WEBマーケティングとビジネス</p>	オムニバス方式
		<p>観光産業マーケティング論</p> <p>本講義では、観光関連産業における観光振興に特有のマーケティングについて、マーケティングの基礎理論を基に詳細に学ぶ。講義では、まずマーケティングの基礎理論について述べたのちに観光産業マーケティング(産業、商品、需要)の特殊性について述べ、その後、マーケティングの理論の観光産業への応用について論じるという内容とする。なお、本講義では、あくまで基本的なマーケティングの基礎理論を基にした観光産業のマーケティングの特性の理解に焦点を当てるが、オンライン予約やソーシャルメディアを利用した近年のマーケティングに関しても、各論の事例として取り上げる。なお、観光地に観光旅行者を誘致するためのマーケティングであるデスティネーションマーケティングについては、高次学年配当の専門科目があるが、観光産業マーケティングを形成する一部として、本講義でもその基本的な概要について講義する。</p>	
		<p>観光サービスマネジメント論</p> <p>我が国において観光サービス業は今後の成長が期待されている。本科目では、観光産業の広い現場を想定した議論を行う。重要なのは「ヒト」の関与である。多様なニーズの顧客とスキルが一樣ではない従業員が接点を持つのがサービスの特徴の1つであり、「人」は重要なテーマである。</p> <p>また、サービスの戦略的ビジョンの設計や成長を支える仕組み、現場が直面する課題と解決策を考えていく。</p> <p>サービスの特徴を加味した、業態の特性に応じたマネジメントのアプローチ、サービス・プロフィット・チェーンのようなサービス特有の考え方をふまえ、観光サービスマネジメントの実務に資する力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目 コア科目群	アートマネジメント 概論	<p>アートマネジメントは、狭義では文化施設、文化団体、文化イベントの運営のあり方、広義では芸術・文化を活用した地域活性化や地域共生社会の構築など芸術・文化と社会をつなぐ領域全般を指す。この授業では、文化施設や文化イベント運営の実務につながる基本的な知識の習得とともに、現代社会のさまざまな分野と芸術・文化とのつながりについて理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全12回) (6) 古賀弥生／6回 (3) 藤野一夫／6回) 広義について担当 (18 井原麗奈／6回) 主として狭義の定義に関する内容を担当 (令和3年度は藤野、令和4年度以降は古賀が担当)</p>	オムニバス方式
	パフォーマンス アーツ概論	<p>この授業の目的は、「パフォーマンスアーツ」についての視野を広げ、それぞれの文脈や背景を含めて、その初歩的な理解を得ることである。内容は、ショービジネスや舞台芸術から、民俗芸能、政治演説・示威運動(デモ)にいたるまで、人が人前で振る舞う際の技を、そのコンテクストとともに紹介・考察してゆく。</p> <p>(オムニバス方式／12回) (11) 富田大介／1-7, 11-12講目) 国や時代の傾向を鑑みながら、ショービジネスからデモンストレーションまで、さまざまな種類のパフォーマンスアーツについて、講義を行う。また、それらの形態や性質の違いを理解しているかの確認試験を行う。</p> <p>(3) 藤野一夫／8講目) リヒャルト・ワーグナーの楽劇について、また彼の「祝祭劇場」と後のヒトラー(ナチス)との関係について、講義を行う。 (13) 李知映／9講目) 日本統治下ならびにその後の米軍政期における韓国の演劇やダンスについて、講義を行う。 (23) 児玉北斗／10講目) 地理的に「西洋」の周縁ながら重要な振付家を輩出している北米(カナダ)や北欧(スウェーデン)の現代舞踊について、講義を行う。</p>	オムニバス方式
	文化施設運営論	<p>この科目は、アートマネジャーの最も大切な職能の一つでもある、文化施設の企画と管理運営のスキル、舞台機構などの技術に関する知識、法規などの制度面、経営面、ホスピタリティなどの諸側面から論じ、実践に出るための土台を養成する。また、劇場や音楽堂等の文化施設が、地域の文化拠点および社会基盤として果たすべき役割、今日的課題、将来の可能性について、劇場や創造団体のプロデューサー、アーティストといった多様な視点から、グループワークなども取り入れながら具体的に考え、議論する。</p> <p>■オムニバス方式／全12回 (21) 尾西教彰／4回) 文化施設の歩みや現状、組織や財源など運営のあり方、事業展開の基本的な考え方について、兵庫県立劇場における、主に演劇制作実務の例をもとに学ぶ。 (35) 近藤のぞみ／4回) 文化施設において事業担当が行う具体的な業務、事業の企画立案や予算管理、広報・宣伝、営業・票券、表方等の基本について、主に音楽制作実務を例に学ぶ。</p> <p>(21) 尾西教彰、(35) 近藤のぞみ／4回) 初回のガイダンスでは、各指導者の実務経験(尾西は劇場及び劇団における演劇制作者、近藤は地域マーケティングをもとに芸術全般を扱う事業企画者)から、文化施設の運営に係る様々な職能を明らかにする。途中の2回は学内劇場を実際に巡り、舞台機構・設備の機能や用途、安全管理、活用法などについて、施設の管理者および利用者両方の視点から考える。最終回は学生のプレゼンテーションをめぐって全員でディスカッションを行い、知識の定着、理解の深化とともに課題を明確にする。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目	芸術文化と観光	<p>本学での4年間の学びの出発点となる重要な科目である。観光分野と芸術文化分野という、一般的な通念からすると、その関係性の具体像がなかなかイメージしにくい二つの分野について、両分野を架橋することが、交流人口の多い活性化した地域像を創造する源泉になることを学修する。両分野の政策的な動向、諸外国では当然のように行われている両分野を架橋する取組み事例、そして国内で一つの象徴的な取組みとなりつつある国際芸術祭等を取り上げ、両分野の基礎的な理解とともに、それを架橋する意義を理解できるものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全12回) (⑥平田オリザ/4回)</p> <p>公共政策としての文化観光政策、街づくりと観光文化政策、観光とエンタテインメント、芸術家から見た観光の意味 (①藤野一夫/4回)</p> <p>芸術文化政策と観光政策の連携のしくみ、文化芸術と観光の同根性と新しい社会システム、ドイツ語圏における芸術文化政策と観光政策のしくみ、日本における芸術文化政策と観光政策の構築 (⑭高橋一夫/4回)</p> <p>観光事業と観光産業、旅行商品の構成要素とそれが消費者に届くまで、観光からみた文化・芸術、フェスティバルにおける観光の役割</p>	オムニバス方式
	建築関連法令と著作権	<p>本講座では、芸術・文化・観光と建築・著作権についての関わりと、各分野を運営していくうえで必要となる、建築と各分野の施設に関連する法規制・著作権に関連する法規制の基礎知識を学ぶものとする。前半では、建築関連法令を扱う。大きくは「建築基準法」と「消防法」が中心と考え、各施設への法規制の概要を学ぶ。また、「ハートビル」や「旅館営業」など、他の関係法令により建築への対応が求められている事案についても、法規定と併せ「バリアフリー」「衛生的な施設」などについて解説する。後半では、著作権を扱う。前半との関連も意識しつつ「建築の著作物」・観光写真撮影の限界という観点から「写真の著作物」を中心に扱う。また観光案内等作成の必要性から著作権者の権利と何が著作権侵害にあたるかを検討する。更に国際観光を鑑み、著作権の国際的利用についても解説する。前半・後半を通じて具体的事例を挙げて学生の理解を深めるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全12回) (②松田典之/6回)</p> <p>芸術・文化・観光と建築の関わりと施設、事例の紹介、その他の関連する法規、消防法による規定と具体的事例、福祉関連・観光業施設営業に関する規定と具体的事例、前半の総括、 (②西村正喜/6回)</p> <p>著作権について、著作物の意義と建築の著作物、写真の著作物、著作者とその権利の内容、著作者の権利の制限と著作権侵害になる行為、著作権の国際的利用について、後半の総括</p>	オムニバス方式
	地域創生論	<p>地域創生とは、人口減少と都市への人口集中、少子高齢化など地域社会が抱える課題に対応し、地域がその個性を活かしながら魅力を高めていく取り組みを指す。地域創生の取り組みは、経済と文化芸術の両面からのアプローチが考えられ、地域に関わる人々の主体的な活動により支えられるものである。この授業では、兵庫県内はもとより全国、海外も含めた地域創生事例を取り上げ、経済と文化を両輪とした地域の持続可能な発展を支える活動について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/12回) (⑥古賀弥生・⑮佐竹隆幸/5回)</p> <p>地域創生とはなにか、但馬地域の地域課題と地域資源、但馬地域の地域創生を考える①、但馬地域の地域創生を考える②、但馬地域の地域創生を考える③ (⑥古賀弥生/3回)</p> <p>文化芸術の取り組みと地域創生、創造都市論、地域創生における連携・協働の重要性 (⑮佐竹隆幸/4回)</p> <p>まち・ひと・しごと創生総合戦略について、地域創生とまちづくり、地域創生とひとづくり、地域創生としごとづくり</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	コア科目	芸術文化・観光プロジェクト実習 1	芸術文化・観光プロジェクト実習 1 では、芸術文化と観光の双方の視点を生かした演劇祭(豊岡演劇祭、鳥の演劇祭、利賀フェスティバル)に係る実習を通じて、地域における芸術文化・観光プロジェクトの全体像を把握し、企画・運営の仕方、住民および観客との関わり方等を知る。これによって国際的フェスティバルにおける芸術文化と観光との関連性を実感するとともに、両分野の連携に関する課題を発見し、その解決と新たな展開へ向けての視点を獲得する。具体的には運営のスタッフとして、国内外からの来場者や海外のアーティストの宿泊施設、移動手段における対応など、芸術文化および観光の実務を通じて演劇祭の全体像を把握する。	共同
		芸術文化・観光プロジェクト実習 2	芸術文化・観光プロジェクト実習 1 において把握した全体像をふまえて、グループに分かれて基礎的な知識・技能を学ぶ。具体的には、国際的な演劇祭の運営スタッフとして、個別公演の企画運営、招へい公演の調整、演劇鑑賞者の観光周遊を促進する広報宣伝業務等の実務を行う。また、中間時点で定期的に各グループが課題等を共有する場を設定し、芸術文化と観光の双方の視点を生かした技法についてアイデアを出し合う。これによって、芸術文化・観光プロジェクトが生み出す新たな価値への理解を深め、スタッフワークの実践力の向上を図る。	共同
		芸術文化・観光プロジェクト実習 3	芸術文化・観光プロジェクト実習 2 または海外実習で修得した基礎的知識・技能を踏まえて、芸術文化・観光プロジェクト実習 3 では、芸術分野および観光分野を関連させたプロジェクトに、企画運営スタッフの中心として参画する。これにより、芸術文化および観光の両分野に必要な知識と技能を修得し、さらに専門演習や将来の進路と結びつけ、自らの関心分野に即して新たな企画提案ができるように、専任教員が助言・指導を行う。 すなわち、実習指導者および実習施設職員が専任教員と協力して企画する芸術文化・観光プロジェクトに、その中心的運営スタッフとして参画し、実習 1 および実習 2 の実習生のコーディネートを行う。そこで得られた主体的な共創の経験をもとに、芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画提案を行えるように導く。	共同
		芸術文化・観光プロジェクト実習 4	芸術文化・観光プロジェクト実習 4 は、芸術文化と観光の双方の視点から芸術文化に磨きをかけ、それを観光に生かすことで地域活力の創出につなげる実践能力を養う実習である。本プロジェクトに求められる能力は、演劇祭などの舞台芸術を観光のコンテンツとして活用することだけではない。この能力には、観光の視点に立って新たな芸術作品や企画を生み出す創造力も含まれる。 実習 3 では、実習指導者および実習施設職員が専任教員と協力して企画したプロジェクトの中心的運営を担った。その経験から得られた構想をもとに、実習 4 では、総合演習とも結びつけ、自らの関心と強みを生かし、芸術文化と観光の双方の視点を生かした新たな企画を実現するために、学生主体の実習を行う。	共同
		専門演習	学生が分野の異なる複数の教員による指導を受けながら、芸術文化と観光を生かして地域活性化につなげる専門的知識の理解を深めるとともに、実行力を高める。学生は、研究課題の収集や研究方法の検討などをグループで協働して取り組むことを通じて、意見を調整しながら様々な研究手法を試みるとともに、課題解決の方策を考える能力の修得を目指す。 総合演習を見据えて、学生が関心を抱いた研究テーマに基づき専門演習を選択し、芸術文化と観光の双方の視点から学修する。具体的には、芸術文化系の教員と観光系の教員がそれぞれ主指導と副指導のペアで行うが、グループのテーマや人数に応じては3名以上の教員体制とする。指導教員は適正や能力を把握した上で、様々な課題を提示し、学生が課題に取り組み、グループワークを行った後にとりまとめを行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	共通 職業理論科目	リーダーシップ論	グループ討論やロールプレイを通じて、リーダーシップに関する実践的な能力を身に付けてもらうことを目標とする。リーダーシップは、どんな職業においても、地域社会においても、肩書等に関係なく必要な能力であり、また後天的に身に付けることができる。学生時代に必要なリーダーシップ及び社会人になってから特に重要なリーダーシップのそれぞれにおいて習得してもらう。題材としては、古今東西の経営者や政治家を取り上げる他、教員が実際に体験した事例、一緒に仕事をした人の事例等も取り上げる。	
		グローバルリーダー入門	グローバルリーダーとは自国と相手国の両者の歴史や文化、社会を理解し、双方にとって互恵的な意思決定をおこなうことができる人材と本講義では定義する。語学力も重要であるが、異文化への理解がさらに上位の素養といえる。また、多文化的価値観を理解する受容力をもつことが必須である。多文化主義的感性をもち、そのうえで複雑な課題を主体的に考え、実践できることを目指していく。そのために、ビジネスの現場で直面したさまざまな事例を教材とし、リーダーシップとともに、フォロワーシップの重要性について受講者と一緒に考えていく。次世代リーダーに必須の知識であり、異文化を知ること、自文化の当たり前を取りはらうことが、自らを客観視することにつながるものである。また、心の知能指数「EQ」のトレーニングもおこなう。なお、授業のために指定した資料を事前に読む宿題形式を前提とし、講義中は主に双方向型で活発な討議をおこなう。	
		アントレプレナーシップ論	アントレプレナーシップは企業家精神、アントレプレナーは企業家と訳される。一方で、アントレプレナーシップの本来の意義は、時代と社会の変化に対応して、リスクテイキングを厭わず、能動的に新たな事業に取り組み、行動する企業家活動と考えられる。 地方の人口減少が進行する中、経済活性化を図るには、ビジネス・モデルのイノベーション（革新）が求められる。アントレプレナーシップの知識を体系的に習得するため、企業事例を参照しながら、アントレプレナーシップの理論と一緒に学んでいく。また本講義では、「大阪企業家ミュージアム」を訪問する機会も設ける。	
		ビジネス アカウンティング論	企業の経営活動が複雑化、多様化する中で、自社や取引先あるいは投資先などの経営実態を正しく把握するための手段として、代表的な企業情報である会計情報（貸借対照表や損益計算書などの財務諸表）を理解できる能力（会計リテラシー）が求められる。 簿記を知らなくても、財務諸表の構造や諸法令などの知識と分析力を基に、企業の財務状態、経営成績、キャッシュ・フローの状況などを判断することができる。これらの能力を身に付け、会計リテラシーを持つ人材を育成する。	
		組織マネジメント論	民間企業や自治体など公的機関でも、組織を強くするのは、そこに所属する人である。本講義では組織における人間の行動に焦点をあて、個人の行動特性やモチベーションについて学ぶことで、強い組織、持続可能な組織を創りあげていくことを考えていく。組織マネジメントのあり方は、多様な観点で研究がおこなわれているが、特に組織内の個人行動と組織の内外の管理のあり方、動機付けの問題などを掘り下げていく。また、企業や自治体にとどまらず、非営利組織（NPO/NGO）にも焦点をあて、どのような経営資源を獲得することが持続可能性につながるか理解を図る。	
		コーチング論	本授業では対人コミュニケーションの基本となる「聴く力」「質問力」「伝える力」を高めることを目的とする。ベースはコーチングのスキルとなるが、ファシリテーションスキルや交渉のスキルを交え、1対1または1対多など、さまざまな場面におけるコミュニケーションの質を高めるための学習と実践の場を提供する。 一方、スキルはそれを扱う人に依存する。本講義では、良いコミュニケーションを生み出すものは何かという本質を同時に探究する。人間という存在への理解を深めることで、自分を知り、他者を理解しようという姿勢を身につけていくことを目指す。現代社会において仕事や人生を豊かにするために必須といわれるコミュニケーション力ですが、その向上のための「あり方（being）」を見直す場にもしていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
② 職業専門科目	職業理論科目	地域イノベーション論	地域イノベーション論では、地域の課題をイノベティブな方法によって解決しながら地域創生を展開する方法論について、実際の地域のイノベーションのケースを通じて実践的に理論的フレームワークを学習する。そのなかでも中心的な概念は、ダイナミック・ケイパビリティ概念とコレクティブ・インパクト概念である。講義内容は、地域イノベーションに取り組んでいる自治体やNPO、民間企業のケースを中心に展開される。ゲストスピーカーにも登壇していただく予定である。		
		リスクマネジメント論	リスクとは経済的損失や事業の中断、停止、信用、ブランドイメージの失墜等、事業活動に望ましくない影響を与える可能性やその要因と定義する。組織経営の安定化を図りつつ、組織として持続、発展していくうえで障壁となるリスクを正確に把握し、事前に経済的かつ合理的な対策を講じることで、危険の発生を回避するとともに、危機発生時の損失を極小化するための活動をリスクマネジメントという。法令違反によるリスク以外にも、自然災害によるリスクや環境リスク、情報漏洩やシステムダウンのリスク、調達・物流リスクなどもある。そのためにも危機に直面し、緊急事態に至った場合に備えた取組みや実際の緊急事態対応に関するマネジメントのあり方に関して、過去の実例を交えながら学んでいく。		
		人的資源管理論	企業経営や組織の運営においては、様々な設備導入やIT技術による経営革新があるとはいえ、人的資源の活用が重要な経営課題となっている。本講義は、人的資源の管理の特性と共に、成果を上げるために取られている管理手法の考え方を理解したい。個々の企業・組織にとってタレントとなる人材の効果的な採用、配置、訓練開発、業績評価、キャリア管理、離職低下、リーダーシップ開発、生産性向上、ダイバーシティのあり方、そして人材の国際化のあり方等の人的資源管理の特性をより実践的な観点で学ぶ。		
	職業実践科目	共通	地域創生実習	地域創生とは、将来を見据えつつ、地域がそれぞれの強みと魅力を活かし、活力を持てる社会を実現できるように、環境形成を目指し、心豊かな暮らしを実現していく活動のことを指す。この実習では、自治体での地域創生における取組について、自ら体験しながら学習する。 対象自治体に出向き、地域創生についての取組の視察や、専門家や教員の指導を受けつつ、活動への関与を通じて、地域の持つ課題や、課題に対応する地域創生の現実的な取組について学ぶ。 指示に基づきながらも、自らができることを考え、主体的に行動することによって、最終的には取組内容について、独自の考察を加えたレポートを作成し、実習先に対してプレゼンテーションを実施する。	共同
		創造性開発演習	フィールドワークなどを通じて、観光、地域振興につながる創造性を開発することを目標とする。創造性の開発には、様々な分野のインプット、枠にとらわれない思考、フィールドワークでの体感の3つが重要であるとの方針のもと、多くの演習を行う。特に授業期間中2回は、豊岡市をはじめとした但馬地域でフィールドワークを行い、地元の資源に着目した創造性開発を行う。最後は、観光、地域振興に関する新たな提案を発表してもらう。	共同	
		地域イノベーション実習	Schumpeter, J. A.の定義によると、イノベーションとは経済活動の中で生産手段や資源、労働力などをそれまでとは異なる仕方で新結合することを指す。そのなかでも日本企業におけるイノベーションは経営革新と称される。この実習では、地域にある中小企業のイノベーションの実践について、自ら体験しながら学習する。 イノベーションを実現した企業に出向き、経営者や社員の皆さんの体験談を聞き、企業の組織風土や、イノベーションに至る課題の発掘方法、イノベーションが創出できた理由やその成立プロセスなどについて、自らも企業の中で行動することによって学ぶ。 指示に基づきながらも、自らができることを考え、主体的に行動することによって、最終的には取組内容について、独自の考察を加えたレポートを作成し、実習先に対してプレゼンテーションを実施する。	共同	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目	共通	地域連携実習	<p>実り多い地域社会とは、住民・企業・行政がそれぞれのできることを行いながら協力していくことにより実現されるものである。この実習では、地域社会を構成する住民・企業・行政から本学へ寄せられた課題事項に対して、自ら考察し、課題解決策の検討を実施する。</p> <p>解決策の検討には、課題（ニーズ）認識、課題解決に向けての仮説立案、課題解決に使用できる人材/設備資源/アイデアなど皆さんや本学が有するもの（シーズ）の検討、ニーズとシーズのマッチング、目標及びアクションプランの策定などが必要になる。</p> <p>これまで学んだ内容を活かし、実現可能性の高い解決策を策定し、そのプロセスを通じてニーズやシーズを用いて事業創造するプロセスについて学ぶ。最終的には住民・企業・行政に対して、有効な課題解決策を提案するプレゼンテーションを実施する。</p>	共同
		観光政策論	<p>「観光政策とは、国や地方自治体が観光事業の適切な効果を挙げることを目的として、観光事業の振興を図るための諸方策である。他方、観光行政は、観光政策の理念に基づき、政策を具体化する行為である」（小谷達男『観光事業論』1994年）と定義づけされている。このように、観光政策と観光行政は、“車の両輪”の関係にある。本講義は、主として国と地方公共団体の観光行政・政策及び地域の観光まちづくりについて学習し、21世紀における観光政策のあり方・進め方を探ることを目的とする。</p>	
	観光系科目群	職業理論科目	観光交通論	<p>観光について考える際、交通は重要な要素のひとつである。本講義では、現代の我々にとって馴染み深い観光の成立に、交通の発展がどのように関わってきたのか、世界・日本・但馬それぞれの歴史に触れながら概説する。その上で、現在の但馬観光にあたって人々が利用することのできる交通手段の現状を詳しくまとめ、その強みや利点を知るとともに、課題と改善策についても検討し、受講者一人ひとりが自分なりの意見を自身の言葉でまとめていく。</p>
観光系科目群		職業理論科目	<p>ニューツーリズム論</p> <p>本講義では、従来型の物見遊山的な大衆観光（マスツーリズム）がもたらす弊害を克服する目的で生じた、また、テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた「新しい観光」（ニューツーリズム・オルタナティブツーリズム）の展開過程を紹介する。とくに、日本を含む主要観光国における観光形態が多様化していることを体系的に把握できるように、具体的な事例（エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム等）を用いて示す。自然との共生・調和やオーバーツーリズムなど、ニューツーリズムの発展にともなって新たな課題についても検討する。オムニバス形式（一部共同）で講義し、今後の観光政策の進むべき方向性について受講生が考え、議論できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全12回) <input type="checkbox"/>7 西崎伸子/5回) エコツーリズム、エスニックツーリズム、ボランティアツーリズム等 <input checked="" type="checkbox"/>33 高橋伸佳/5回) グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム等 <input type="checkbox"/>7 西崎伸子・<input checked="" type="checkbox"/>33 高橋伸佳/2回) ガイダンス、まとめ</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	観光系科目群	職業理論科目	観光経営学	<p>経営学が特に研究対象とするのは「企業」や「会社」と呼ばれる組織であり、経営学の理解はマネジメントを行うための第一歩である。観光においても、我々に情報を提供し予約・決済の役割を担う旅行会社、居住地から観光地までスムーズに運んでくれる航空会社や鉄道会社、ゆっくりと温泉につかって美味しい食事に舌鼓をうつ旅館、その土地ならではの経験をさせてくれるアクティビティ提供会社などが存在する。こうした企業のトップは組織をどうつくり、社員のやる気どうやって維持しているのだろうか。</p> <p>この講義では経営学を概観し、基礎的な理論や知識、フレームワークを観光関連企業にあてはめながら講義する。</p>	
			観光産業分析	<p>観光立国推進基本法では、観光立国の実現のために、観光産業における国際競争力の強化を4つの柱の内の一つに据えている。そして、そのためには人材の育成が必要であることを指摘している。各種の観光産業が求める人材として必要な知識と理論とはなにかを、各種の観光産業のビジネスモデルを分析することで理解をしていく。</p> <p>この講義では、観光産業の中核を担う業界を中心に、その事業の本質と事業展開、及びイノベーションによるビジネスモデルの変化について言及する。その分析の中からビジネスモデルの優劣の判断基準、設計の思想を導き出していくとともに、そのビジネスモデルがなぜうまくいっているのか、あるいはなぜうまくいかないのかを各種の理論をもとに分析する。</p>	
			旅行産業論	<p>日本における旅行産業、特にインバウンドは今後の成長が期待されている。</p> <p>本科目では、観光立国推進政策の中核的産業である旅行産業を取り上げ、旅行市場の現状、旅行会社の経営、営業販売、商品造成、関連ビジネスなどの実例・実態を踏まえ、旅行産業の課題と展望を講義する。旅行業の現状、経営及びマーケット特性なども概観し、そのうえで、法人旅行、個人旅行、グローバル事業について講義し、あわせて旅行産業の各分野に関する課題整理と将来を展望する。</p>	
			宿泊産業論	<p>わが国における宿泊施設は全国に82,150施設存在する（厚生労働省,平成30年）。施設数は平成20年から30年の間に2.7%減少した。内訳でみると、旅館は倒産傾向が続き24%もの減少となってきた半面、ホテルは8.3%の増加、簡易宿泊所は40.8%もの増加を示すなど業界におけるプレイヤー構成そのものが大きく変化してきている。こうした中、宿泊業界においては、生産性向上や人材確保が急務な状況であるほか、訪日外国人旅行者の急増に伴い、Wi-Fi環境整備、ホームページの多言語化、クレジットカードの対応、多言語表示ツールなどの整備が市場から求められるなど課題山積である。加えて、民泊新法（住宅宿泊事業法）が平成30年より施行され業態の多様化が進展している。本講義では、宿泊産業の全体俯瞰と各機能の理解とともに、産業構造の変化に即した現状と課題、未来の在り方にして議論していく。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目 観光系科目群 職業理論科目	エアリアマネジメント論	<p>一般に、エアリアマネジメント（AM）は、「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み」と定義されている。AM活動は、地域特性を重視し、地域価値を高めることを目的として展開されている。AMの課題としては、活動のための財源の確保、組織化の課題、そして活動を維持・拡大するための専門の人材の確保の3つが挙げられている。本講義では、主として観光を含むAMの様々な事例をベースにして、受講生が地域の特性に応じた最適なAM活動を理解し、組織の一員としての的確に状況を分析・判断し活動できるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全12回） （ 2 佐藤善信/8回）</p> <p>AMの3つの課題を具体的な事例をベースにして考察する①②③、フリーマン理論に基づく「利害関係者志向の経営」を学ぶ、エドモンドソン理論に基づく「境界を越えたチーム形成」を学ぶ、豊岡市宵田商店街（カバンストリート）の事例①、グループワーク：カバンストリートの事例②、VUCA時代のAMについて学ぶ（佐藤） （ 33 高橋伸佳/4回）</p> <p>米国オレゴン州ポートランドの事例、八代市DMOやつしろの事例、荒尾市スマートシティの事例、城崎まちづくりファンドの事例</p>	オムニバス方式
	観光社会学	<p>本講義は、観光社会学の知識や考え方を身につけ、それを応用して文章で表現できるようになることを目標としている。</p> <p>授業全体は大きく二つのパートに分かれている。前半(第1回～第6回)は、観光社会学に関する知識(研究枠組み、理論など)を身につけるパートである。後半(第7回～第12回)は、観光社会学の分析手法とそれを用いて得られた成果を学ぶことで、応用力を身につけるパートである。</p> <p>受講生は前半と後半を合わせて学ぶことで、自分自身が興味、関心を持ったテーマについて、授業で得られた知識を応用して分析、考察した結果を最終レポートに結実させる。</p>	
	デスティネーションマネジメント論	<p>「観光立国」を掲げるわが国において、訪日外国人の急増、観光による地方創生といった背景により、デスティネーション・マネジメント(観光地域経営)の必要性が認識されるようになり、政府は観光地域経営法人(DMO)の登録制度を設け、その形成・確立に向けた支援に取り組んでいる。わが国においてデスティネーションマネジメントを具体的に実践していく手法については体系的に整理されていないが、本講座では欧米におけるデスティネーションマネジメントの概念を整理した上で、デスティネーションマネジメントおよびマーケティングの手法や事業の組み立てについて具体例を交えながら学ぶことを目的とする。</p>	
	観光地理学	<p>人文地理学の一分野である観光地理学は、地域の環境や歴史、文化などを分析し、持続可能な観光地域づくりを考える学問である。本講義では、「温泉観光」「自然観光」「農村観光」「歴史文化観光」「都市観光」の5つの代表的な観光地域の例を用いてその形成過程、機能、構造などを学び、観光地のあり方を考える。授業の後半ではテーマごとに観光地のあり方に関する討論を行い、観光地理学への理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式/全12回） （ 10 塩川太郎/11回）授業紹介、観光と観光地域、日本の温泉観光地域1、海外の温泉観光地域、自然観光地域、農山村観光地域、日本の歴史文化観光地域、海外の歴史文化観光地域、都市観光地域、但馬の観光地域、まとめ （ 1 中尾清/1回）日本の温泉観光地域2</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目群	観光系科目群	職業理論科目	観光マーケティング分析論	本講義は、観光旅行者・潜在的観光者の理解の為に有用な基礎的な質問票（アンケート）調査法と、汎用性の高い統計分析手法および統計表現手法について学ぶ。ケースとしては、同年次を対象とする「デスティネーションマーケティング論」に合わせ、観光旅行者の観光地に対する期待と観光地ポジショニングに関連する「観光地イメージ」を主な対象とする。観光マーケティングに関してはこの年次では他の講義と合わせて習熟中であるためケースを絞るが、ここで学んだ手法は、観光旅行者の分類、動機、行動意向など、観光マーケティングに必要な様々な分析目的に応用可能である。この講義ではテーマを「質問票調査設計」、「基礎的データ解析」、「応用的解析」、「結果の表現」に分け、観光地イメージ研究の事例を参照しながら、実践的視点に立って進められる。また、受講者に実際に解析ソフトを動かしてもらい、実感を伴った理解ができるようにする。	
			観光メディア論	本講義は、観光とメディアの関係性について、多角的な観点から見ていく。 授業全体は大きく二つのパートに分かれている。前半(第1回～第6回)は、観光とメディアに関する基礎的知識と歴史を整理するパートである。後半(第7回～第12回)は、現代における観光とメディアの関係性について考察するパートである。 受講生は前半と後半の内容を通して、自分自身が興味、関心を持ったテーマについて、授業で得られた知識や探し出した文献に書かれている内容を応用して分析、考察した結果を最終レポートに結実させる。	
			観光キャリア英語	DMOが「海外の観光産業に対する担当する地域の観光地としてのプロモーションのための英語による口頭プレゼンテーション」を行う上で必要なスキルと留意点について学ぶ。	
			マネジメントキャリア英語	ビジネスの現場、マネジメントで通用する英語力について演習を通じて、押さえるべきことを繰り返し練習する。特に注力するのは、英語での会話・対話と学習効果の高い教材を使つての読解である。授業半分はすべて英語で行い、半分は日本語と英語を混ぜて実施する。英語は各人の能力の違いが大きいことから、個別に進捗状況を把握して助言・コーチングを行っていく。現実のビジネスの現場で起こっていることをエピソードとして多数入れることで学生の将来のキャリア形成にも役立つ内容とする。	
			観光デジタルマーケティング論	近年、デジタル技術の進展によって、マーケティングの考え方・技法が根本的に変わってきている。デジタルマーケティングは、観光業界はもとより、すべてのビジネスの現場において、必要不可欠なテーマとなっている。本講義の目的は、観光事業におけるデジタルマーケティングについて、理論と技法の両面から学び、現場担当者として必要となる基礎知識・思考方法を身につけることである。講義の進め方は、まず教員から基礎的な知識を提供し、次にその知識をもとにして課題に取り組み、発表を行う形式とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目	観光系科目群	デスティネーションマーケティング論	「観光産業マーケティング」で学んだ内容を踏まえ、観光地に潜在的観光旅行者を目的とするデスティネーションマーケティング(DM)の仕組みと、関連する理論について学ぶ。DMは誘客を目的としている点で一般商品のマーケティングの理論の応用が有効である一方、観光地(デスティネーション)は一般の商品とは異なる複合性があり、関係者が様々であるため、持続可能な観光振興の為に、DMの特殊性を理解することが重要である。講義では、テーマを「マーケティングの基礎理論」、「関連組織」、「観光地の魅力発信」「潜在的観光旅行者理解」に分け、受講者が、関係者、観光地、顧客(潜在的観光旅行者)のそれぞれを理解し、DMの施策策定に有効な素養を身につけることができる内容を提供する。	
		旅行者心理学	観光旅行者心理の観点から、観光旅行者行動が生起する仕組みを理論的に学ぶ。講義では、テーマを旅行前・中・後に段階を分け、旅行前は観光旅行者の動機・観光イメージ・訪問意思決定、旅行中は環境と人間の相互関係・環境配慮行動、旅行後は再訪意向について学ぶ。特に、観光地と観光者を別個にのみ扱うのではなく、観光旅行者動機(プッシュ)と観光地特性の知覚(プル)の枠組みに基づき、観光旅行者心理の視点から見た彼らと観光目的地環境の相互関係に焦点を当てるのが本講義の特徴である。	
		ブランド論	ブランド戦略は近年、様々な領域に適用されるようになってきている。例えば、パーソナル・ブランディング、プレイス・ブランディング、あるいはエンプロイヤー・ブランディングといったようにである。ブランディングとはあるモノ・コトをブランド化するという意味である。元々、ブランディングの対象は製品や企業であった。プロダクト・ブランド、コーポレート・ブランドがそうである。本科目では、ブランドの意味、なぜブランドが重要なのか、ブランディング(ブランド戦略)の実践的内容、そしてブランディング対象の広がりについて、身近なケースを取り上げながら説明して行く。	
		インバウンドマーケティング論	本科目では、国境を越えて来訪する国際観光客(外客)に焦点を当て、特にその集客と顧客満足を中心的な課題として取り上げる。そして経営学で発展を遂げてきたマーケティングの概念と手法の応用的な展開により、課題解決への接近方法を学ぶ。具体的には、観光・ホスピタリティ産業におけるマーケティング・ミックス(製品、価格、流通、コミュニケーション)の各分野について、概念、理論、手法、事例を学ぶ。なお、授業の基本的構成は、教員によるレクチャーとレポート課題に関する学生のプレゼンテーションとする。	
	職業実践科目	社会調査演習	社会調査は、文化人類学・社会学・地理学などの学問分野における基本的な研究手法である。この授業では、とくに文化人類学的な調査の基本と手法を修得することを目的とする。まず、授業全体のテーマ、あるいは受講生の関心にもとづいて、問題設定・仮説構成から、調査の計画・準備、実施(資料・データ収集)、分析に至るまでの調査の流れを示し、質的調査(参与観察・インタビュー)と文献調査の基本的技法が修得できるように演習をおこなう。	
		観光資源実習	但馬地域は海と山に囲まれ、自然の観光資源が充実している。本授業では、海の観光資源としてスノーケリング体験施設(海コース)、山の観光資源としてスキー場(夏場はキャンプ場として利用)(山コース)にて実習を行う。但馬地域の自然を利用した観光レジャーを体験するとともに施設の業務に従事することで観光資源の知識及び施設の運営ノウハウやホスピタリティ力を修得する。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
②職業専門科目	観光系科目群	職業実践科目	観光交通業実習 1	日本における観光交通産業は今後の成長が国策的にも期待されている。本実習では、観光立国推進政策の中核的産業である交通産業のうち、鉄道会社、バス会社、航空会社の各施設で実務を遂行することにより、基本的な知識・技能などの業務遂行力の修得を目的とする。 実習施設では、旅客業務や予約業務など観光交通サービスの実務を通じて、観光交通業の仕組みを理解し、地域における観光交通業の役割について理解を深める。	共同
			観光交通業実習 2	日本における観光交通産業は今後の成長が国策的にも期待されている。本実習では、観光交通業実習 1 の学修を踏まえ、観光立国推進政策の中核的産業である交通産業のうち、鉄道会社、バス会社、航空会社の各施設で実務を遂行することにより、基本的な知識・技能などの業務遂行力の修得に加え、企画力の修得を目的とする。 実習施設では、旅客業務、予約業務のほか、ツアー企画業務などに従事することにより、地域の観光資源を探求し、着地型観光交通や観光地間周遊の現状と課題を理解し、地域における観光交通業の役割について理解を深める。	共同
			旅行事業実習 1	日本における旅行産業は今後の成長が国策的にも期待されている。本実習では、観光立国推進政策の中核的産業である旅行産業のうち、旅行会社の施設で実務を遂行することにより、基本的な知識・技能などの業務遂行力の修得を目的とする。 実習施設では、旅客業務や予約業務など旅行事業サービスの実務を通じて、旅行業の仕組みを理解し、地域における旅行業の役割について理解を深める。	共同
			旅行事業実習 2	日本における旅行産業は今後の成長が国策的にも期待されている。本実習では、旅行事業実習 1 の学修を踏まえ、観光立国推進政策の中核的産業である旅行産業のうち、旅行会社の各施設で実務を遂行することにより、基本的な知識・技能などの業務遂行力の修得に加え、企画力の修得を目的とする。 実習施設では、旅客業務、予約業務のほか、ツアー企画業務などに従事することにより、地域の観光資源を探求し、着地型観光事業や観光地間周遊の現状と課題を理解し、地域における旅行業の役割について理解を深める。	共同
			宿泊業実習 1	人口減少社会においても、わが国の宿泊産業は訪日外国人の増加もあり、宿泊者数は比較的底堅く推移していく見込みである。しかしながら、中長期的な観点でみると宿泊産業は慢性的な人材不足を背景に、新たな担い手と生産性の向上が求められている。加えて、投資ファンドの流入や運営形態の多様化、民泊事業者の台頭など業界地図が塗り替えられている激変期において、今後も宿泊産業を持続的に発展させていく新たな対応が必要となっている。 こうした状況の中、実際の宿泊産業の現場ではどのような管理・運営がなされているのか、課題や改善策は検討しうるのか宿泊施設での現場実習を通して自ら主体的に検証していく。	共同
			宿泊業実習 2	人口減少社会においても、わが国の宿泊産業は訪日外国人の増加もあり、宿泊者数は比較的底堅く推移していく見込みである。しかしながら、中長期的な観点でみると宿泊産業は慢性的な人材不足を背景に、新たな担い手と生産性の向上が求められている。加えて、投資ファンドの流入や運営形態の多様化、民泊事業者の台頭など業界地図が塗り替えられている激変期において、今後も宿泊産業を持続的に発展させていく新たな対応が必要となっている。 第 2 クォーターでの実習した基礎知識をもって、新たな宿泊施設にて実習を展開する。その際、実習の中で宿泊施設の新たなビジョンを構想しつつ、実現可能性の高い企画を考案していく実践力を養うものとする。	共同
			海外実習 A	台湾の提携大学にて 3 週間の海外実習を行う。1 週目には、実習に必要な中国語の講習や台湾の文化体験、ホームステイなどを行い、台湾の習慣や言語を学んで実習に備える。2 週目及び 3 週目は台中市内のホテルにて実習を行い、海外における観光施設での経験を積む。また休日等を利用し、台湾の観光地を見学し、台湾の観光文化への理解を深める。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
②職業専門科目	観光系科目群	職業実践科目	ホスピタリティ実習	顧客の気持ちを動かす満足度向上を組織として実現するかについて、観光サービスの視点から臨地にて実習を行うことにより学ぶ。 実習施設では、接客業務を内容とする業態であるテーマパーク及びリゾート施設において、定型的なサービスの提供にとどまらず、主として人によるおもてなしを手段とする価値創造の重要性を理解し、サービスの担い手としての創意工夫を引き出す観光サービスの業務遂行力を修得する。 また、観光サービスマネジメントの仕組と役割を理解し、現場が直面する課題と解決策について理解を深める。	共同
			観光プロモーション演習	マーケティング・ミックスの一つであるプロモーション。あくまでもプロモーションは単体で成立するものではなくマーケティングプロセスの一環であることを理解しておく必要がある。こうした前提に基づき、本演習では企業や行政、観光業界で実際取り組まれているマーケティングプロセス全般を学習した上で、新たな観光プロモーション手法を検討する講義とする。 講義においては、企業等の講師を大学に招聘し、観光プロモーション方策の立案を大学内にて演習形式で展開する。その中で、地域に根差した観光協会、DMO等の役割を知り、新たなプロモーション方策を具体的に作成していく。	
			デスクティネーション実習	大学が所在する豊岡市近郊には、情緒あふれる町並みが人気の城崎温泉や城下町の面影を残す出石町、天空の城とよばれる竹田城跡といった人気観光地が点在している。本実習では、これら大学近郊の観光地の行政機関や第三セクター、観光協会などの民間事業者といった機関のなかから、学生にとって適切な実習先を選んで2週間程度の職業体験を行う。観光現場での体験をとおして観光系の職業についての理解を深めることを目的とする。	共同
			観光情報演習	近年の情報技術の発達にともない、従来の情報処理技術では扱うことができなかった様々なデータがビッグデータと呼ばれ、社会・経済の問題解決や業務の付加価値向上に役立てられるようになった。ビッグデータは観光業界でも活用が始まり、これまで熟練者の勘と経験則で立案されてきた観光施策が、現在では意外なデータから発見されたり、データによって効果を確認したりできるようになっている。本演習では、観光業界で近年よく使われているデータの種類を知り、その活用法を実践的に学び、オンラインで得られない情報を実地で収集して補いながら、データを活用した観光施策の立案に挑戦する。	
			観光プロジェクト立案演習	一般的に観光系事業は、商品・サービスの開発、それら商品・サービスの販売、そして顧客対応を行い、資金収支を管理しながら営まれる。大学が所在する豊岡市には、城崎温泉・竹野海岸・出石町・神鍋高原といった観光地が点在しているが、本演習では近郊の観光地において、学生のアイデアによる観光系商品・サービスの企画開発を行い、マーケティング活動や来訪客の受け入れまでの一連の業務を体験することで観光サービスの実際を学ぶことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	芸術文化系科目群	職業理論科目	演劇史	日本並びに世界の演劇史を、劇場の歴史を中心に概観する。ギリシャ・ローマ時代から始め、ルネッサンスから近代・現代にいたるまでを、日本独自の能舞台や歌舞伎劇場の発展や近代日本における劇場についても言及しながら、まずは辿ってみる。ひきつづき、現代の欧米や日本における劇場という制度やそこで行われている演劇の現在についても考える。	
			文化政策概論	文化政策は芸術・文化に関する公共政策を指し、芸術・文化の振興と同時に、他の政策領域とも連携して芸術・文化を通じた人々のQOL（生の質）の向上、地域社会の活性化を実現するものである。その主体は、行政はもちろんのこと、企業やNPOの参画も必須であり、現代社会を構成するさまざまなアクターが協働することによって担われている。この授業では海外と日本の文化政策について歴史的経緯、現状と課題に関する知識を習得し、芸術・文化の公共性について理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全12回） （ <input type="checkbox"/> 6 古賀弥生／6回）（ <input type="checkbox"/> 3 藤野一夫／6回） NPO等との連携による文化政策の展開や公共性に関する内容 （18 井原麗奈／6回） 主として歴史や文化行政の現状と課題に関する内容 （令和3年度は藤野、令和4年度以降は古賀が担当）	オムニバス方式
			批評論	芸術という営みは、作品の創造のみでなく、それをいかに批評的に受容し、新たな知的・実践的文脈を作り出すか、すなわち「批評力」にもかかっている。本授業では、表現者のみならず、アートマネジャー、プロデューサーそしてもちろん批評家を志す者に必須なこの「批評力」を養い、向上させることを主眼とする。 したがって、単に国内外の代表的な「批評家」のテキストを読解するだけでなく、実作品（ないしその映像）を見つつ、自らの批評力を高め、磨くライティング、ディスカッションも行う。 なかんずく、アート業界においても「和」的心性を尊ぶあまり、えてして欧米的な「クリティック」が機能しにくいこの国において、真の「批評精神」とはいかなるものか、その精髓を探究する。	
			芸術文化と著作権、法、契約	本講座では、あらゆる芸術分野の関係者にとって必須の知識となった「著作権」「肖像権」「下請法・労働法」などの基礎知識を中心に、「契約書の読み方・交渉のしかた」「税金・社会保険」など、いわばアーティストやスタッフにとっての生存のための必須知識を、基本から学ぶ。 中心となる著作権では、実際に論争になった作品や、「投稿の注意点」「二次創作」「"パクリ"論争」などの同時代のトピックに触れて考えることで、著作権や契約が、私たち全てにかかわる刺激的なテーマであることがわかるだろう。	
			美学美術史	（日本で「芸術」「アート」などと訳され誤解されることも多い）「Art」は、西欧近代という特定の地域・時代に作られた歴史的概念であり実践である。それは今や歴史的臨界点に達している。 本授業では、近代におけるArtの「誕生」から出発して、それが19世紀に渡り探究し尽くされた末、アヴァンギャルド運動によって根本から異議申し立てされた後も幾多の危機を被り、ついには現在（特に美術マーケットにおいて）Moneyの価値と禁断の婚姻を遂げつつある事態を、歴史的に追跡するとともに、その人類史的意義を、美学、現代思想などの視点から考察する。また、「Art以降」も射程に入れ、特に日本でArtの外の分野で、これまででない創造性が胎動している諸例を「GEIDO」という新たな概念のもとに探究する。 学生は単に一方的に講義されるのではなく、担当者が仕掛ける知的問いやミニワークショップを通して、自発的に考え、論じる力を養うことができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	芸術文化系科目群	職業理論科目	世界の文化政策	この科目では、これからの社会の発展にとって、また人間の文化権の保障にとって、なぜ文化政策が公共政策の重点分野として必要不可欠なのかについて、その歴史と理論、世界各国との比較において論じ、考察する。 国の文化政策だけでなく、地方自治体の役割やアーツカウンシルの仕組みなど、芸術文化を取り巻く社会制度について幅広く考える。 (オムニバス方式/全12回) (<input type="checkbox"/> 35) 近藤のぞみ/4回) フランスの文化政策について、国の文化政策だけでなく、地方の文化行政や民間の活動、文化産業への視点など多層的な文化政策に焦点を当てる。 (<input type="checkbox"/> 13) 李知映/4回) 韓国の文化政策について、年代に沿ってその範囲の変化と展開について学ぶとともに、文化芸術の分野での労働環境について考察する。 (<input type="checkbox"/> 14) 小林瑠音/4回) イギリスの文化政策について、特にアーツカウンシルの発展に焦点を当てる。	オムニバス方式
			映像メディア論	19世紀に登場した映像メディアは20世紀を通じて社会に浸透し、現代社会のあらゆる局面において重要な役割を担っている。本講義では、映像メディアの歴史を概観するとともに、映像がますます日常的なものになった現代社会の諸相について考察する。また、映像を用いた多様な芸術表現についてもあわせて講義する。	
			企業メセナ論	企業メセナとは、企業による短期的な経済的見返りを求めない芸術文化への支援活動であるが、長期的には、芸術文化は社会のイノベーションに寄与し、経済の活性化にも貢献してきた。本講義では、企業メセナの歴史および具体的な形態と事例を学ぶとともに、今日的な課題について分析を行う。ここでは対象を音楽・美術・演劇・舞踊には限定せず、デザインやものづくり、生活文化や郷土芸能にまで広げ、芸術文化と経済と(地域)社会の関係を、人間の創造性の観点から多角的に考察する。	
			アートキャリア英語	アートマネジメントの現場(特に舞台芸術領域)で必要とされる基本的な英語のボキャブラリーとその使い方を学ぶ。具体的には、リーディングとライティングを中心に、一般的なビジネスやマネジメントの領域で必要とされる英語の運用力を養成する。まずは、劇場やフェスティバルの現場で頻出の役職名や機材名、財務用語などを習得する。リーディングでは、実際の契約書や申請書、パンフレット等のサンプルをもとに、ビジネス英語特有の表現や語彙を身につける。ライティングでは、ビジネスレター、電子メール、プレスリリース等で用いられる文体や形式などの基礎知識を養う。	
			民俗芸能論	日本の各地で、祭りや年中行事に伴って、あるいは様々な祈願や感謝を込めて演じ、親しまれてきた芸能を「民俗芸能」という。かつての民俗芸能は、日常生活の安穏や五穀の豊穡を祈り、また死者や精霊を供養するといった信仰が基層にあると考えられてきた。そして私たちの生活様式が大きく変わった現代においても、民俗芸能は、貴重な文化財・文化遺産として、観光や地域振興の資源として、あるいは新たな社会関係を築く紐帯として等々、多様な価値を見出されて伝えられている。その一方で、過疎・高齢化や、地域社会における互助共同の意識の低下などを理由に、継承の危機に直面している民俗芸能の例も少なくない。この授業では、民俗芸能に関する基礎的な知識を獲得すると同時に、そうした現代の民俗芸能を取り巻く様々な問題を理解し、地域の人びととともに問題に対処するための関わり方や実践的な支援の方法について考えてみたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	芸術文化系科目群	職業理論科目	音楽文化論	公共ホールにおける分野別事業件数において突出しているのが音楽関係である。音楽文化についての基本的素養の獲得は、特にアートマネジャーにとって不可欠である。オペラやバレエを含むクラシックや日本の伝統芸能は、人格形成と社会形成にとって不可欠の人文主義的基礎として、ますますアクチュアルな意味をもってきており、文化政策や企業メセナによる支援が必要となる。主に西洋における音楽の起源と、近現代における発展を、貴族などのパトロン制から市民主体の公開演奏会制度への変化、さらにワーグナーにおける総合芸術としての祝祭劇などを事例に、「公共性の構造転換」の観点から解明する。その上で、現代の市民社会における音楽文化の意義を問い、いかにより幅広い市民へと良質な音楽芸術を媒介・普及するかについて、アートマネジメントの技法を踏まえて具体的に論じる。	
			現代アート論	「現代アート」を「Contemporary Art」の訳語ととれば、それはすべてマルセル・デュシャンから始まったと言える。その経緯を解きほぐしつつ、現代のアートの特徴とされるインスタレーション、パフォーマンス、マルチメディア、インタラクティブ、ジャンルの越境性などが、実は20世紀初頭のアヴァンギャルド運動に淵源することをまずは押さえる。そしてContemporary Artがモダニズム、ポストモダニズムを経験した後、20世紀末、ある種の歴史的限界に至ることを見ていく。また、「日本」という元来(Contemporary) Artが自生したわけではない国で、「現代アート」が独自の展開を遂げるとともに、固有の問題を孕んでいることを指摘する。 そうした「現代アート」の歴史的背景を押さえた上で、現代の、特に日本で雨後の筍のごとく隆盛している(「ビエンナーレ」「トリエンナーレ」「芸術祭」などと呼ばれる)「アート・プロジェクト」の可能性と問題点を、海外の事例と比較しつつ論じていく。また、それらアート・プロジェクトを含め、日本の「現代アート」を取り巻く社会・政治・文化的状況を、表現の自由、アーツカウンシル、指定管理者制度などの観点から考察していく。	共同
			文化産業論	「文化」は、経済とは相容れないもの、と考えられがちである。しかし、歴史的に見ても、文化は常に経済的なパトロンを必要としてきた。近年では、経済活動に対する芸術文化の貢献への関心も高まるなど、文化と経済との関係には多様な側面が見られる。文化産業における文化概念は、狭義の芸術ジャンルのみならず、広告、建築、デザイン、各種メディア、ゲーム、ソフトウェアなどを包括する。本講義においては、芸術文化と産業・経済の複雑な関係について、文化産業論以外に、文化政策学や文化資源学等も利用し、その歴史や理論等を多角的にみていきたい。	
			舞台芸術入門	舞台芸術作品をつくるに際して必要な事柄を、演出家や舞台監督の役割、舞台美術の仕事、大道具備品の構成と管理、照明・音響の操作、作品の取り扱いや管理、および劇場運営や広報、劇評等の意義に至るまで、一通り学び、舞台芸術全般について基礎的な知見と理解を得る。 (オムニバス方式/全12回) (20 杉山至/3回) ガイダンスと舞台スタッフワーク1・2・3 (27 河村竜也/3回) 演出家や舞台監督として戯曲を読み解く、演出家や舞台監督の立場で仕事を発注する、発注を請ける、演出家や舞台監督として稽古を進行する (11 富田大介/3回) 舞台芸術と鑑賞体験 (13 李知映/3回) 「劇場」とは何か、劇の現場から、劇評の書き方	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	芸術文化系科目群	職業理論科目	演劇入門	<p>本講座は、文化人類学的な演劇の起源、西洋演劇史、日本演劇史など、歴史的概観を縦軸に、現在の戯曲論と演出論、演技論、舞台制作論を横軸において、立体的に演劇の実践と演劇論の全体像をつかむ構成となっている。</p> <p>パフォーマンスアーツを専門とする学生の入門という位置づけを鑑み、「人はなぜ演じるのか」「なぜ、人類は演劇を必要としてきたのか」といった根源的な問いかけから出発し、現状の世界演劇の俯瞰図、およびその体系を把握することを最終目標とする。</p> <p>また、特に、近代日本演劇史に重点を置き、主要な演出家の演出論と演技論の分析から、演劇を批評的に見る態度を習得させる。</p>	
			空間デザイン入門	<p>舞台芸術のみならず日常から祝祭までを視野にいれた空間デザインの基礎知識を得ると共に授業内で扱うテーマについてのグループディスカッションやグループワークと授業外学習を通して、空間デザインの構想方法と他者とのコラボレーションの方法を習得する。</p> <p>コミュニケーションをキーワードに建築や舞台美術、グラフィックデザインやランドスケープデザイン等まで、幅広く空間デザインについての構想と実際についてスライドレクチャーを通して学習していく。</p> <p>また、授業で扱うテーマについての授業外学習やグループワークにより、他者とのコミュニケーション、イメージを共有するという体験により、対話の芸術である舞台芸術の特性と魅力に触れる。</p>	
			演劇教育入門	<p>演劇教育には、演劇そのものの教育（芸術の教養として、専門家養成として）と、演劇を活用した教育がある。本授業では、主に後者について、演劇が教育とどのように結びついているのか、わが国の教育実践例を中心的に体験的に理解する。</p> <p>（オムニバス方式／12回） （12 平田知之／3回）</p> <p>教育改革の動向と演劇教育、教科の学習で活用する演劇、非認知能力を高めるために活用する演劇 （<input type="checkbox"/>24 石井路子／3回）</p> <p>学校現場と演劇 （<input type="checkbox"/>17 飛田勘文／4回）</p> <p>児童演劇の現場、開発教育と演劇、異文化理解教育と演劇、持続可能性教育と演劇 オリエンテーション（1回）とまとめ（12回）は三名で担当</p>	オムニバス方式
			演技論	<p>演技をめぐる言葉と向き合う。創作現場で、表現者個々のうちに、どんな言葉があるのかを知り、それらの言葉が、それぞれの歴史や文化をふまえた豊かさをもつ、多様なものであることを知る。表現者のうちにある言葉、観客・批評家・研究者によって語られる言葉、異ジャンルの舞台上で語られる言葉、異文化の舞台上で語られる言葉、過去の時代に語られた言葉、などに触れ、それらの言葉に触発され、自身の言葉を鍛え、敬意をもって他者と関わっていく第一歩とする。対話における他者への敬意を、演技論の視座から学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全12回） （<input type="checkbox"/>25 山内健司／9回）</p> <p>「戯曲と演技の間にある言葉」「日本の戯曲と演技論をセットで読む」「翻訳された言葉と演技」「海外の演技論」 （<input type="checkbox"/>22 木田真理子／3回）</p> <p>「没入する演技と冷静な演技」「解釈と演技—解釈の仕方—で演技がどう変化するか考える」「メッセージとして伝わる動きを考える—同じ動きをつかかってメッセージを変化させる」</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
②職業専門科目	芸術文化系科目群	職業理論科目	身体表現論	<p>この授業の目的は、「地球上にはいろいろな体の表現があることを知る」にある。内容は主に、映像や写真、書物などに表象・記述される種々の身体表現を紹介・考察しながら学ぶものとなる。</p> <p>(オムニバス方式／12回) (11 富田大介／1-6回目)</p> <p>人間の芸術的舞踊のみならず、生き物の擬態も含めた広い意味での身体表現を、映像や写真などのメディアを介して紹介する、また、それらが文化的ないし自然的環境とどれほど関係しているかを考察する講義を行う。</p> <p>(23 児玉北斗／7-12回目)</p> <p>人間の舞踊やパフォーマンスを中心に、その振付や表現の主体の在り処を考察し、またその表現がどれほど社会の日常的振る舞いと関連しているかを反省する講義を行う。</p>	オムニバス方式
			舞台芸術論	<p>舞台芸術論では、主に舞台を用いた各種の表現行為と観客との相互関係（五感を通じたコミュニケーション）、そして野外劇も含めて劇場空間からそのつど生起する非（・超・反）日常的経験、さらにはそれによる知覚の刷新や世界認識の変容について、担当教員たちが演劇、バレエ、前衛的身体表現などの領域にわたりジャンル横断的に論じる。また、劇場空間と政治性、特に文化政策や植民地主義との関係について、そしてその空間で表現行為を行う者と観客をめぐる権力関係とそこからの逸脱の可能性について、国内外の多様な事例と理論を交えて探究する。</p> <p>(オムニバス方式／12回) (5 熊倉敬聡・23 児玉北斗・13 李知映／1回)</p> <p>舞台芸術と政治性 (5 熊倉敬聡／3回) 身体をめぐる権力関係と脱芸術の可能性。劇場外の〈場〉づくりの可能性。ArtとActの往還による新たな文化的・政治的創造。</p> <p>(23 児玉北斗／4回) ダンスと空間／時間／身体／言語。コレオグラフィー＝ダンスを書く。ダンスと「芸術」の微妙な関係。現代の身体：テクノロジーとダンスをめぐる。</p> <p>(13 李知映／4回) 日本における演劇と社会－「近代化」の彼方へ。劇場と専属団体の関係性。韓国における脱植民主義と演劇。国際交流と舞台芸術。</p>	オムニバス方式
			舞台美術論	<p>この授業の目的は国内外の舞台芸術について舞台美術・セノグラフィーの観点からの知見と理解と構想力を得ることである。授業はスライドレクチャーを軸に一部アクティブラーニングを取り入れて行う。</p> <p>世界的な舞台芸術の潮流について、特にヨーロッパ、日本の舞台美術の歴史を軸に概観し、舞台芸術の表象について学ぶ。また、舞台美術の発想と舞台空間の基本的なプランニングについて、環境、空間、建築、照明、音響等の関わりを含め学ぶ。</p> <p>アクティブラーニングを取り入れた授業内実習の前半は、『共感覚』をキーワードに音や言葉と空間の関わりを軸にホワイトモデル（白模型）の製作を行う。後半は『原風景』をキーワードに上演を前提とした舞台美術のプランニングと構想までをグループワークで行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目	職業理論科目	パフォーミング キャリア英語	本授業は、グループワークを伴う講義形式で実施される。まずは英語圏で演劇やダンス活動をする際によく使用する、あるいは舞台美術をデザインする時に必要となる基本的な英語のことば（演劇の専門用語）について学習する。しかし、英語のことばを学ぶだけでは英語圏のアーティストと一緒に活動をしていくことは難しい。そこで、次に、異文化理解を前提としながら、英語圏のアーティストがどのような演劇やダンスの体験を積んできているのか、また、彼らと舞台芸術活動の協働作業をしていく上で必須となるものの見方や考え方、価値観、態度について検討していく。最後に、実際に英語を使用して舞台芸術活動を展開できるようになるために、受講生はグループに分かれ、それまでに学んだ英語のことばやものの見方などをもとに、短い演劇あるいはダンスワークショップの英語進行台本を作成し、発表する。もしくは、自分が上演してみたいと考える演劇作品の演出案や、自分が手がけてみたいと思う舞台作品の装置や衣裳のデザイン案などを英語でプレゼンする。	
		演劇教育論	演劇を活用した教育を支える理論と実践について、最新の動向を実践的に学ぶとともに、文献を活用して、通時的、共時的な理解を深め、エビデンスに基づいたワークショップの企画提案する力を身につける。 (オムニバス方式／12回) (12 平田知之／4回) 社会構成主義と演劇教育、新教育と学校演劇、戦後の学校演劇、新学力観と演劇教育 (24 石井路子／3回) 芸術家と協働した演劇教育の理論、企画、評価 (17 飛田勘文／4回) クリエイティブドラマ、Drama in Education、プレヒトの教育劇、非抑圧者の演劇 まとめ (1回) は三名で担当	オムニバス方式
	職業実践科目	舞台芸術基礎実習	理論の講義やコミュニケーション系の演習、各種ワークショップ演習の学びを、舞台芸術作品の実際の創作活動を通して、応用ないし検証する。 プロの演出家やスタッフの指導のもと学生はキャストやダンサー・パフォーマーとして舞台上に立ち、制作や舞台美術・照明・音響といったスタッフワークを担うことで、舞台芸術についての体験的学習を通して技術と知識を包括的に習得していく。	共同
		舞台芸術実習 A	舞台芸術基礎実習で学んだ理論やコミュニケーションに関する学びを、上演芸術の実作を通じて、舞台と観客のコミュニケーション、舞台上で俳優同士で行われるコミュニケーション、技術制作スタッフとのコミュニケーションなどに応用し、体験的に検証する。舞台上で上演される作品がどのような意図をもって舞台上に現出させられるのか、その意図（演出プラン）について実作を通して学ぶ。またその意図を届けるために、俳優やダンサーの身体、現場（例えば劇場）の機構や装置、舞台美術、客席の位置等、またステージマネージングや広報などの運営も含めたプランニングが必要であることを、体験的に学習する。	共同
		舞台芸術実習 B	これまでに履修した講義や演習、実習の学びを踏まえ、舞台芸術の実作を通じて、表現者として自立する第一歩とする。海外の演劇学校と伍するレベルの演劇作品の創作を目指し、日本と世界の現代演劇を考察する礎とする。演劇制作にまつわるすべての職種において、誰もが主体的に全体の仕事にあたる創作環境を獲得し、集団による創作に臨む。多様な表現者と多様な観客とが、お互いを尊重して集うことのできる場としての演劇作品をつくる。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目	芸術文化系科目群	職業実践科目	舞台芸術実習C	コミュニケーション演習・ワークショップ実習などで習得した技術や、講義で学習した理論を応用し、「振付」という実践を通して小作品を創作する。舞台、照明、音響、衣装、美術、観客、言語情報などとの関係性の中で、いかにして自らの身体表現を構築するかということ、実作を通じて学ぶ。また、ダンサー、ドラマトゥルグ、マネージメントや広報担当者などとのコミュニケーションにおいて必要になるアイデア・コンセプトの言語化を重視し、舞台芸術の創作に必須であるグループワークの技術と社会性への意識を培う。フィードバック時には、ゲスト講師を招いて、意見交換を行う。	共同
			舞台芸術実習D	この授業では、3年次までに履修した理論の講義やコミュニケーション系の演習、各種ワークショップ演習の学びをふまえた上で、それらの知識や経験を実際のダンスクリエーションの現場で応用ないし検証できる力を培う。振付家の指示や既存の振付作品から動きを立ち上げ、それらの動きを再構成することで、新たなダンスシーンをつくり、プレゼンテーションする。	共同
			劇場プロデュース実習1	この科目では、舞台設備のある文化施設で実際に働き、現場の経験を積むことにより、劇場運営に関わる基礎的な職業能力の修得を目的としている。 文化施設での仕事は多岐にわたり、機構・設備の維持管理、自主事業の企画制作、利用者（地域のアマチュアから全国規模のプロアーティストまで）への対応、公演当日の会場表方、舞台の安全を担保する裏方など、様々な能力・技術が求められ、各専門家が関わっている。 劇場現場での実務体験を通じて、劇場の仕組みを理解し、企画制作、広報・宣伝、地域との関わりなど、劇場・音楽堂等のソフト運営における基礎となる要素を体得し、地域における劇場の役割について理解を深める。	共同
			劇場プロデュース実習2	劇場現場での実務を通じて、芸術・文化に対する理解を深めるとともに、企画制作、広報・宣伝、地域との関わりなど、劇場・音楽堂等のソフト運営における基礎となる要素を体得し、劇場運営に関わる職業能力を修得する。 劇場プロデュース実習1の続編となり、劇場現場における仕事をこなすだけでなく、社会において劇場が存在する意味を考えながら、劇場ができることを企画し提案できる視点を養う。	共同
			文化政策実習	豊岡市を中心とする但馬地域の自治体における文化政策の現状を分析し、新たな文化振興策の提案を行う。提案にあたっては、当該自治体の文化事業への参画、住民を対象とした調査、他都市の文化政策の事例調査等を行った上で、具体的な予算要求資料案を作成する。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
② 職業専門科目群	芸術文化系科目群	職業実践科目	総合芸術文化実習	この科目では、「劇場プロデュース実習2」に参加した学生のうち、本格的に劇場で働くことを希望する者に対して、将来の志望や適性等を考慮したうえで劇場とマッチングを行う。少数名（1劇場1～2名）が長期間（約4週間）にわたって実習を行うことで、劇場運営に関わる専門的、実践的な職業能力の修得を目的としている。 芸術および地域マネジメントの観点から、劇場内外の業務をスタッフとともに行い、新たなソフト事業、設備・機材といったハード活用の具体的な企画提案や運営、舞台技術や接客等の専門的な研修も経験することで、劇場運営に係る専門的な知識と技術を体得する。また、将来、多文化・多民族による共生社会の到来が予想される中、社会包摂など時代の要請に応えるビジョンを描き、地域の発展を促すような企画、その実施方法を考える実践的な力を養う。	共同
			身体コミュニケーション実習	この授業の目的はダンスや歌などを通じて身体的なコミュニケーションや表現の可能性を知ることにある。内容は主に、歌や踊りが起こりやすい空間や人との間合いなどを探りながら、身体感覚に基づくコミュニケーション（交感や共感）のあり方を学ぶものとなる。 (オムニバス方式／24回) (11 富田大介／1-8回目) 身体でのコミュニケーションの基礎を養うことを目的として、人の動きを模倣するということから始め、自身のオリジナルな動きを作成するところまで行う。 (22 木田真理子／9-16回目) 身体コミュニケーションの密度を上げることを目的として、人間的な記憶や感情、ならびに物質的なモノや他者の眼差しとの関係を課すワークを行う。 (23 児玉北斗／17-24回目) 身体コミュニケーションの発展系として、床面や人体との直接的な接触、ならびに環境から触発された即興を享受するワークを行う。また、最後にグループで小品を創る。	オムニバス方式
			演劇ワークショップ実習A	この授業の目的は、1.俳優の仕事を通じて他者と関わる力を養うこと、2.戯曲のなかの役の人物という他者を自身の身体で実現していくこと、3.相手役と考えを伝えあい一緒に実現していくこと。短期間で集中して（夏季集中講義）、俳優が戯曲を手にしてから舞台に立つまでの、俳優の仕事のプロセスを知る。短めの戯曲に集中して向き合い、繰り返し上演するトレーニングである「シーンスタディ」を行う。自分の力で戯曲に分け入り、自発的に相手役とコミュニケーションをとって、自分たちの力で演技をつくることを実践。実際に創作の現場に臨むにあたっての土台作りを目指す。	共同
			演劇ワークショップ実習B	冬季集中講義として短期間で集中して、演出家やドラマティチャーの仕事について学ぶために、ワークショップ形式での実習を行う。 コミュニケーションに必要な情報共有の力や合意形成の力、さらに身体に表れる非言語を読み解く力、またクリエーションに必要なポジティブな思考や協働のスキルを学ぶ。「演出家」や「ドラマティチャー」といった他者とのコミュニケーションが不可欠な仕事について、上述したスキルを駆使しながら役割を遂行する術について学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
② 職業専門科目 芸術文化系科目群 職業実践科目	演劇ワークショップ 実習C	この授業の目的は、短期間で集中して（夏季集中講義）「豊岡についての作品を、豊岡でつくり、豊岡で上演する」こと。しゃべり言葉を調べるフィールドワークを行い、「豊岡ノート」という作品をつくる。戯曲のセリフが書かれた話し言葉であるのに対し、私たちがしゃべっている本物の話し言葉の複雑さ豊かさむきあい、言葉が生成されることの不思議さに触れ、言葉を生成する演技という行為の本質とむきあう。豊岡の街に出て、気になる人にインタビューを試み、「今」のリアルな一期一会の会話を採集。採集したテキストを、詳細に分析し、それをもとに作品「豊岡ノート」を製作、上演する。演技という窓から、他者を訪れる試み。	共同
	演劇ワークショップ 実習D	短期間で集中して（冬季集中講義）、演劇ワークショップファシリテーター、教育演劇コーディネーターの仕事、ならびにそれらを巡る仕事に焦点をあてて、ワークショップの実践や準備、振り返り、コーディネートのプロセスを、実際に体験して省察し、将来実践家として活躍するための、基本的な考え方や、技術、基盤となる理論の獲得を目指す。	共同
	ダンスワーク ショップ実習A	この授業の目的は、ダンサーとしてダンス作品のクリエイションに関わる上で必要な想像力ないし技術を培うものである。振付家や演出家からの指示に従うだけでなく、ダンサーとしてその指示の意味を理解・解釈し、考えを発展させる。短期間で集中して（夏季集中講義になります）、ダンサーの仕事ならびにダンスを巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。	
	ダンスワーク ショップ実習B	冬期集中講義として「振付」という角度から、ダンス関連の文献講読、振付／ムーブメントワークショップ、ディスカッション、ライティングなどを通じて協働におけるコミュニケーションの能力、クリエイションにおける倫理観や方法論、大胆さを培う。「振付」という概念を問い直し、現代における振付家の仕事を、様々な例の実践・鑑賞を通して議論・検討することで、ダンスと身体に関する言説に対する理解を深める。	
	ダンスワーク ショップ実習C	この授業の目的は、ダンスを教える際に必要な創造力ないし技術を培うものである。自らの身体感覚を言語化し、他者との身体感覚の違いを認めることで、ダンスを様々な方法で共有する。短期間で集中して（夏季集中講義になります）、ダンスティーチャーの仕事ならびにダンス教育を巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。	
	ダンスワーク ショップ実習D	この授業の目的は、ダンスコーディネーターや（実践的な）ダンス研究者に必要な諸能力を認識し、その幾分かでも会得することにある。授業の内容と形態は、富田の選んだ外部講師とともに、ある社会的課題に絡むダンスワークショップ（プロジェクト）を行いながら、学習するものである。テーマは今回、豊岡の自然の力を象徴する「水」を予定している。 なお、この授業は8日間（1日6時間）の集中講義となる。	
	海外実習B	ドイツのザクセン文化基盤研究所を拠点に、ゲルリッツ大学及びゲルリッツ劇場との連携において3週間の海外実習を行う。本実習は「ゲルリッツ・シアターサマーアカデミー」の枠組みで実施される。最初の1週間は、ドイツ・ポーランド・チェコの国境地帯にある地方都市間のネットワークにおいて、劇場やオーケストラなどの芸術機関がどのように運営されているかを国境を超えて学ぶ。2週目は、ドイツ国内で日本学を学ぶ学生の参画を得て演劇作品の公演準備を進める。3週目は、ゲルリッツ劇場との連携において公立劇場の職能全般についての研修を行い、また市内の高校等で演劇公演を行う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
③ 展 開 科 目	世界を知る	<p>双方向のやり取りを通じて、「世界の今とその背景」を知り、自らの意見を持つことを目標とする。授業は、毎回自分か関心を持った世界情勢について発表をしてもらい、それらについて議論する。さらに、教師が毎回のテーマについて、世界の象徴的な事件や出来事を、写真や映像も用いてビジュアルに取り上げる。最後には自分の関心のある地域・国の文化についてロールプレイで演じてもらうことで文化を実感してもらおう。現在の世界を形作っている政治経済はもちろん、歴史、宗教、芸術などのテーマについても知識・見識を持つことを目指す。</p>	
	地域の医療と福祉	<p>わが国では少子・高齢化や経済の低成長に伴い、国民生活を守るための「社会保障」の今後が不安視されている。10%の消費税増税は、概ね社会保障への用途とされているが、現在の制度における課題の解決がまず必要である。本講義のテーマである「医療」「福祉」はその社会保障の一部である。</p> <p>本講義の前半では、主にわが国の社会保障のうち、医療・福祉の制度全般について、その運営体制や実施を担う専門職について学ぶ。さらにドキュメンタリー映画の視聴を通じ、諸外国とわが国の社会保障制度との違いについても理解する。</p> <p>本講義の後半では、地域において実際にどのように医療・福祉のサービスが提供されているかについて学ぶ。例えば、施設のバリアフリー化を進めるためにどのような福祉制度が利用可能か、地域ではどのようにしてユニバーサルデザインを推進しているかなど、具体例を元にグループワーク（以下、GW）などを交え共に考える講義を行う。</p>	
	持続可能な社会	<p>「持続可能性」・「永続可能性」・「持続可能な社会」という言葉は、一般的に定着し何気なく使われているが、意味する内容は非常に奥深く、歴史ある大きな概念である。1970年代前半に世界の政治と経済が大きく転換するが、これと軌を一にして歴史上に現れる。以後、意味する内容や具体的な方策等が深められ、国際政治経済および地域社会を考える上での重要なキーワード、キーコンセプトとして今日に至っている。</p> <p>講義は、「持続可能な発展」理念、理念の実践過程・歴史的展開過程、理念に基づく現代社会や地域社会の見方、「持続可能な社会」のあり方、地域社会における理念の実現方法等について、テキストを用いて講じる。</p>	
	地域コミュニティー論	<p>人口減少をはじめとする社会の現状や人と人、人と社会とのつながりの希薄化などを背景として、地域コミュニティーには多くの課題が存在する。その課題の解決には「公」「共」「私」それぞれの領域における取り組みとその連携が必要である。この授業では、地域コミュニティーの課題と「公」「共」「私」の領域に関する概念や実際の活動の枠組み、手法を理解し、自らが地域に参画する姿勢を身につけることを目標とする。</p>	
	国際防災論	<p>日本は地震や台風などの自然災害が多い地域であるが、世界では様々な災害が起こっている。近年、想定外と言われる災害が多発しているが、その多くは災害への認識不足に起因している。世界各地で起こる災害と防災について理解することは、これから起こる災害への備えとなるだろう。本講義では、世界の自然災害及び防災事情を学び、日本が世界に貢献できる防災・減災の取り組みを考える。</p>	共同
	NPO・NGOと国際社会	<p>講義の形態は、一方的な知識伝達ではなく、受講生とともに考え、創る講義とする。</p> <p>受講生が、自身のキャリアや地域の未来を切り拓くきっかけとなる、国際社会や我が国が抱える課題と、芸術や観光を中心としたNPO/NGOの役割を幅広く考える材料を提供する。</p> <p>国際社会や我が国の社会課題に取り組むNPO/NGOの運営と、様々な活動分野を学ぶ。ただ単に講義を受講するのではなく、受講生が主役となって学んだことをグループ発表若しくはレポートにより表現する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
③ 展 開 科 目	多文化社会の 社会教育	国境を越えた移動が増えるにつれ、多文化共生は多くの人びとにとって身近な問題となりつつある。日本も決して例外ではない。この講座では、それぞれの国や地域の状況を概観し、国内外の様々な社会教育施設（公民館、図書館、博物館）による共生へ向けた取り組みを学んでいく。多文化共生への対応は、その地域の持つ特性や外国人住民の居住の状況、また時代の変化によっても変わっていく。国内外の先進的な事例から、自分の住む地域で応用できることと、変えていく必要がある点について考えていく。	
	兵庫の教訓を 踏まえた防災	日本は世界でも有数の災害大国である。そのなかで兵庫県は1995年の阪神・淡路大震災をはじめとする幾多の災害から、数多くの災害教訓を蓄積してきた。そこから、ボランティアや協働社会といった防災に留まらない、社会全体に関係する現象や制度等が生まれた。防災は社会の営みと密接に関わっていると言える。本講義では、但馬地方も含めた兵庫の主な災害を理解することを通して、直後の災害対応はもとより、その後の復旧・復興、さらには、将来の災害への備えを体系的に学修する。災害に強い社会を作る上で、将来の中心的役割を担う世代が取り組むべき事項や心構えについても解説する。座学だけでなく、まち歩き、ワークショップ、ディスカッションの機会も取り入れることで、我が事として防災を考える機会を提供する。	
	ジオパークと地域	2010年に世界ジオパークネットワークに加盟した山陰海岸ジオパークには日本海形成に伴った多様な地形、地質、風土が存在する。ジオパークの活動は、それらを保護しながら地域づくりに活かそうとするものである。この講義では、フィールドワークを中心にジオパークの景観を観察し、活動の現場に接することで、地質・地形と文化・産業等との関係性や地域におけるジオパーク活動の意義を理解することを目的とする。	
	コウノトリの 野生復帰と地域	野生動物再導入の先進的事例であるコウノトリの野生復帰について体系的に学ぶ。まず、野生復帰を進めている拠点施設である兵庫県立コウノトリの郷公園を見学し保全の最前線を知る。続いて、野生復帰事業に実践的に関わっている教員が、野生復帰の取り組みに関する講義をオムニバス形式で行う。授業は、鳥類学、生態学等の生物に直接関わる内容から始まり、その後に、歴史学、地域計画学、社会学等の社会科学的な内容に展開する。 (オムニバス形式／全12回) (62 内藤和明／3回) 兵庫県立コウノトリの郷公園の機能と施設の概要、コウノトリの個体群の遺伝的管理、および野生復帰と農業、特に環境保全型稲作の関わりについて講義する。 (63 出口智広／2回) 鳥類の生物学的位置付けと分類群としての特徴、および生物多様性から見た鳥類の現状について講義する。 (64 大迫義人／2回) コウノトリの野生復帰事業の経緯・現状と目標、およびコウノトリと人が共生するための考え方と方策について講義する。 (65 佐川志朗／2回) 河川生態系の機能や特徴とコウノトリの野生復帰との関わり、および河川や流域で進められている自然再生事業の概要について講義する。 (66 中井淳史／1回) コウノトリと人間の関わりについて、歴史的視点に基づいて講義する。 (67 菊池義浩／1回) コウノトリと共生する地域の環境と課題について、地域計画学の視点から講義する。 (68 山室敦嗣／1回) コウノトリの野生復帰事業が地域コミュニティに与えた影響について、社会学の視点から講義する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
③ 展開科目	地域資源の 保全と活用	<p>私たちをとりまく世界にはさまざまな「地域資源」がねむっている。この地域資源は、地域社会の持続的な発展において重要な役割を果たすものである。本講義では、地域資源の概要と、その発掘・保全・活用に関する基礎的な考え方を学ぶ。地域資源を見出す前提として、大地・人・自然の関係性という視点や、それらを時間軸という概念からつないでゆく考え方を学んだうえで、歴史学・社会学・地域計画学を専攻する教員が、それぞれの方法論や視座にたち、実際の地域資源の保全や活用事例について講述する。</p> <p>(オムニバス形式／全12回)</p> <p>(66 中井淳史／4回)</p> <p>歴史学・考古学の観点から、我々をとりまく世界を大地・自然・人との関係という視点でとらえることの重要性や、従来の意味での歴史に回収されない地域社会の「記憶」に目を向けることが「地域資源」発見の前提となることを講じたうえで、さまざまな事物を地域資源として守り、活かすための制度的枠組みがいかに形成されてきたかについて講義する。</p> <p>(68 山室敦嗣／4回)</p> <p>地域社会学・環境社会学の観点から、現代日本における地域資源開発にともなう地域社会の変容について概観したうえで、地域資源の所有主体、利用主体、管理主体の関係性について講じ、地元の諸資源を活かした地域社会の内発的発展の可能性と課題について講義する。</p> <p>(67 菊池義浩／4回)</p> <p>農村集落や歴史的市街地などの集住空間は、地域の自然環境に人間集団が計画的に働きかけ、長い年月を掛けながら形成されてきた。講義では地域の空間と生活との関係性に焦点をあて、地域資源を活用する知恵や継承していく取り組み、また、災害と復興の軌跡を解説し、地域資源を活かしたまちづくりに求められる視点と課題について講義する。</p>	オムニバス方式
	地域情報論	<p>本授業は「データからは見えてこない地域の実像」について学ぶことを目的とする授業であり、デジタル化されていない地域の情報について学ぶ。近年はデータサイエンスの重要性は高まっており、機械学習に関しては様々な分野において非常に高い期待がある。しかしながら、そうした技術を盲目的に頼ることは極めて危険である。実際に、ミクロな視点で地域に目を向けると、データからは見えてこない面も多い。地域住民の心情的な側面や歴史の中で蓄積されてきた地域文化などへの理解を深め、地域情報を適切に扱う上で不可欠な感覚を醸成する。</p> <p>本授業においては各回ごとに問題を提起した上で、授業の前半にはグループ・ディスカッションを通して与えられたテーマについて議論し、授業の後半にはグループ・ディスカッションの内容も踏まえた上で講義形式の座学を行う。</p>	
	国際環境論	<p>現代の環境問題はグローバルに展開し、一国の環境政策では解決困難な大きな社会問題となっている。本講義では、具体的な環境問題として、公害問題、ゴミ問題、野生動物保護問題、森林問題、環境災害などをとりあげ、グローバル環境問題を読み解くための基礎知識と、解決のための基本的な考え方・政策・制度について示す。また、各環境問題の解決に向けて、わたしたちがどのようにしていけばよいのかについて、受講生が考え、議論できるように講義する。</p>	
④ 総合科目	総合演習	<p>4年間の集大成として、地域の諸課題を複眼的な分析を通じて発見し、芸術文化及び観光を生かした新たな価値創造や地域の活性化につながる方策を考える能力の修得を目指す。</p> <p>具体的には演習を通じて、諸課題の抽出・課題解決策の検討・発表・成果のとりまとめを行うため、専任教員による共同指導を原則とし、助言・指導・評価を行う。</p> <p>分野の異なる複数の教員が主指導と副指導を担当することにより、研究テーマの芸術文化分野と観光・経営分野との連携を確保する。</p> <p>また、年間を通じて3回のプレゼンテーション（構想発表会、中間発表会、成果発表会）を公開で実施する。</p>	共同

兵庫県 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
-------	----------	-----------	----------	-------	----------	-----------	----------	-------

--

芸術文化観光専門職大学			
芸術文化・観光学部			
芸術文化・観光学科			
	80	二	320
令和3年4月大学の設置 (認可申請)			
<hr/>			
計	80	二	320